

平成 22 事業年度

(平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

業 務 実 績 報 告 書

独立行政法人 日本万国博覧会記念機構

目 次

平成22年度に係る業務の実績

1. 業務運営の効率化に関する目標を達成するための措置	… 1頁
(1) 共通事項	… 1頁
① 経費の削減	… 1頁
② 給与水準の適正化等	… 1頁
③ 業務の更なる民間開放	… 2頁
④ 組織体制の見直し等	… 3頁
⑤ 業務遂行体制の整備	… 3頁
(2) 公園に関する事項	… 3頁
① 中期目標期間中の公園整備	… 3頁
② 随意契約の適正化	… 3頁
③ 公園敷地の有効活用等	… 5頁
(3) 基金に関する事項	… 6頁
2. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置	… 6頁
(1) 公園に関する事項	… 6頁
① 利用者に対するサービスの向上	… 6頁
② 環境保全への積極的な貢献	…22頁
③ 民間団体との協働による地域社会への積極的な貢献	…26頁
(2) 基金に関する事項	…36頁
① 効果的な助成金の交付	…36頁
② 助成対象事業についての事後評価の実施	…38頁
③ 助成金の交付に係る選考手続き等における客観性及び透明性の確保	…40頁
④ 民間知見の活用	…46頁
(3) 公園事業への繰入れの拡大	…47頁
(4) 基金の運用及び管理における客観性及び透明性の確保	…47頁

3. 予算、収支計画及び資金計画	…49頁
(1) 公園に関する事項	…49頁
(2) 基金に関する事項	…50頁
4. 短期借入金の限度額	…50頁
5. 重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときの計画	…50頁
6. 剰余金の使途	…50頁
7. その他財務省令で定める業務運営に関する事項	…51頁
(1) 人事に関する計画	…51頁
(2) 施設及び設備に関する計画	…52頁
(3) 公園内の安全管理	…53頁
別紙1. 日本万国博覧会記念基金事業審査会委員名簿	…57頁
別紙2. 日本万国博覧会記念基金平成23年度交付決定事業一覧	…58頁
別紙3. 予算、収支計画及び資金計画の計画に対する実績	…62頁
別紙4. 予算、収支計画及び資金計画に関する実績の経年比較表	…67頁
別紙5. 貸借対照表及び利益の処分に関する書類の経年比較表	…68頁
別紙6. 公園整備等に関する計画の執行実績	…69頁

平成 22 年度に係る業務の実績

1. 業務運営の効率化に関する目標を達成するための措置

(1) 共通事項

① 経費の削減

○ 平成 22 年度の一般管理費(総人件費を除く。以下同じ。)は、1,937 百万円となり、年度計画(1,990 百万円以内)に対し、▲53 百万円(▲2.5%)の更なる削減となった。

また、第 2 期中期計画に定めた削減目標(平成 18 年度が基準)に対しては、▲136 百万円(▲6.5%)の削減となっている。

一般管理費の削減状況 (単位：百万円、%)

事業年度		平成 18 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	(参考) 平成 24 年度 (中期目標)
実績	一般管理費	2,073	2,009	1,975	1,937	—
	削減率	—	▲3.1	▲4.7	▲6.5	—
年度 計画	一般管理費	—	2,036	2,072	1,990	1,934
	削減率	—	▲1.8	▲0.1	▲4.0	▲6.7

(注) 削減率は平成 18 年度(実績)に対する割合

○ 平成 22 年度における経費削減に向けての主な取組みは、以下のとおりである。

イ 前年度に引き続き、工事等の契約における競争的な契約の徹底による工事費等の削減(約 521 百万円)に努めたほか、前年度までに行った外灯及び井水活用施設等の整備工事により、約 23,187 千円の管理費等の削減効果を得た。

※ 工事費等の削減額は、競争入札の実施による、設計金額と落札額(契約額)との差額である。

ロ また、民間のノウハウを活用してコストの削減を図るため、前年度に引き続き NPO 法人等から、企画提案書の提出を受け、業務内容の質的低下とならず、また、利用者の立場等の観点からの公園管理が図られるよう十分留意したうえで、花壇管理業務や花園創出管理業務などの公園業務の一部(10 業務)を委託した(コスト削減効果は、約 30 百万円)。

ハ 環境問題等への対応を図りながら、将来的な経費の節減にも寄与するものとして、公園内照明設備の LED 化及び計画的に行っている受変電設備の改修を引き続き平成 22 年度も行った(コスト削減効果は、約 2,605 千円)。

○ なお、物品等の調達に当たっては、「環境物品等の調達の推進を図るための方針」(平成 19 年 2 月)に示された基準に適合した物品の調達に努めた結果、平成 22 年度の環境物品等の調達割合は 99.5%となった。

② 給与水準の適正化等

○ 総人件費の削減

「経済財政運営と構造改革に関する基本方針」(平成 18 年 7 月 7 日閣議決定)等を踏まえ、22 年度の総人件費については 17 年度と比較して 5%以上削減することとしており、この目標を達成するため、20 年度以降再任用職員の労働条件を改定し非常勤化したほか、業務の効率化による超過勤務の抑制や出向者の異動時における出向元への要請を継続的に行った結果、22 年度の総人件費は、次表のとおり対 17 年度比 ▲60,043 千円の減となり、削減率(補正值)は ▲9.3%と大幅に目標を上回った。

総人件費の推移

(単位：千円)

	17年度 (基準)	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
総人件費(注1)	482,041	477,177	457,509	445,134	435,470	421,998
対17年度比		▲4,864	▲24,532	▲36,907	▲46,581	▲60,043
削減率		▲1.0%	▲5.1%	▲7.7%	▲9.7%	▲12.5%
削減率 (補正值)(注2)		▲1.0%	▲5.8%	▲8.4%	▲8.0%	▲9.3%

注1)「総人件費」とは、基本給、諸手当、期末・勤勉手当の総支給額。

注2)「削減率(補正值)」とは、人事院勧告を踏まえた官民の給与較差に基づく給与改定分を除いた削減率。

○ 給与水準の適正化

22年度の当機構職員と国家公務員及び他の独立行政法人職員との給与水準の比較指標(ラスパイレス指数)は、対国家公務員で112.7(21年度111.2)、対他法人で106.8(21年度104.8)となり、前年度と比較してそれぞれ1.5ポイント、2.0ポイントの増となった。

給与水準の適正化については、これまでも労使協議を経て、人事院勧告に準拠した給与の引下げ等はもとより、指数を低減させるために独自の取組みも行ってきたところであり、22年度においても国家公務員に準じて下記の取組みを実施したが、出向者を含む人事異動による調査対象者の入れ替わりや年齢構成の変化により、指数はやや増となっている(指数の分析等については別紙資料参照)。

【平成22年度に実施した取組み】

- ①本給の引下げ(平均改定率▲0.1%)
- ②期末・勤勉手当の支給割合の引下げ(▲0.2月分)
- ③55歳を超える職員については、上記①・②の措置に加え、当分の間、本給・管理職手当・地域手当・期末勤勉手当を一律▲1.5%減額

今後とも、引き続き給与水準について検証を行い、管理職手当の見直し等により適正化に努めていくこととしている。

また、これらの給与水準に関する検証及び適正化の取組状況については、平成23年6月30日に当機構ホームページにて公表した。

③ 業務の更なる民間開放

イ 「万博公園だより」を各家庭等に配布する業務の民間開放

○ 集客のための「万博公園だより」の配布については、更なる業務の効率化と情報発信の強化を行うため、新たな民間開放の対象として、一般競争入札によりタウン紙発行業者を選定し、北摂地区と大阪市内を中心に毎月60万部を各家庭に直接配布した。また、公園沿線の電鉄駅や公共施設にも8万部(4月号から8月号まで5万部)を配布した。

ロ 新規開設施設の管理運営では、平成22年度の実績を評価し次年度以降に反映

[EXPO'70パビリオンの運営]

○ EXPO'70パビリオン(平成22年3月13日オープン)の平成22年度の入館者数は160,475人(無料含む)であった。平成23年度以降においても、日本万国博覧会の成功を後世に継承する同館の開設目的意義を踏襲しつつ、各種展示会の充実、運営ソフトの拡充等の趣向を凝らし、安定した入館者数の確保に努めていくこととした。

[エキスポランド跡地北部区域の暫定利用運営]

- 「人と自然との共生」、「人との交流」をテーマに、農業体験参加型の施設や農産物直売所等を設置した「ファームエキスポ」を平成 22 年 3 月 27 日に開設した。平成 22 年度の農産物直売所の利用者は 99,600 人であった。「ファームエキスポ」は当初の契約期間を 1.5 ヶ月間延長し、平成 23 年 5 月 15 日に閉園した。

[エキスポランド跡地プールの暫定利用運営]

- 平成 22 年 7 月 1 日から 9 月 5 日までの 67 日間、「万博プールガーデン」を開設した。
利用者の安全を第一に、事故の防止に努めるため適切な運営体制を確保し、87,563 人の利用者を楽しんでいただいた。当該プールについては、平成 23 年度も開設することとし、平成 23 年 4 月 12 日に企画競争方式により受託者を決定した。

④ 組織体制の見直し等

- これまで常勤職員 48 名という限られた人員で当機構に対する様々な要請や課題に的確かつ迅速に対応すべく努めてきたところであり、22 年度においては、大阪府が実施する「万博記念公園南側ゾーン活性化事業」に関し、大阪府との協議等に対応するため、総務部に専任の担当者を置くとともに、関係各課から担当者を選定し、理事を中心とした組織横断的なワーキンググループを設けて検討を行った。
今後も、各課からのヒアリング等により業務遂行上の問題点等の把握とその改善に努め、より効率的・効果的な業務運営が可能な組織体制を検討していくこととしている。
- 当機構の管理運営に関する重要事項を審議し、理事長に助言を行うことを目的として設置している評議員会を、平成 22 年 7 月 28 日に開催した。

⑤ 業務執行体制の整備

- 職員の勤務実績・能力・適性等を適切に把握し、職員の資質・能力の向上や業務効率の向上を図るため、毎年度、全職員を対象に勤務評価を行っており、その結果を給与や人員配置等に反映させている。
- 平成 22 年 4 月 1 日付けの昇任・昇給については、21 年度に実施した勤務評価の結果を反映させるとともに、評価の過程で得た情報を活用し、適材適所の人員配置に努めた。
- 22 年度の勤務評価に当たっては、職員から提出させた自己申告書を参考に、平成 22 年 9 月に評価者による面談を行い、21 年度の評価結果を本人に開示するとともに、職員の資質・能力の向上が図られるよう指導・助言を行った。また、平成 23 年 2 月にも面談を行い、業務に関する希望等をヒアリングした。
これらの取組みにより、業務の成果や職員の適性・能力、業務への取組姿勢等を適切に評価し、その結果を平成 23 年 4 月 1 日付けの昇任・昇給・人事異動に反映させたところである。

(2) 公園に関する事項

① 中期目標期間中の公園整備

- 公園整備については、利用者の便益の向上、施設の機能維持、環境保全などの観点から、必要性及び効率化を十分検討しつつ実施した結果、平成 22 年度の整備費として見積もった 1,355 百万円については、競争的な契約の徹底等により 920 百万円に削減できた。

② 随意契約の適正化

- 公園の整備業務については、緊急工事等を除いて全て競争入札で実施することとし、管理業務についても、入札することによって業務に支障が出るなどの事情がある業務以外は競争的契

約の徹底に努めることとしている。

平成 22 年度の競争的な契約の割合は、金額ベースで整備業務が 100.0%、管理業務が 99.6% であり、契約全体では 99.8%となった。

競争的な契約の割合

	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度
整備業務	98.7%	99.2%	100.0%	100.0%	100.0%
管理業務	73.9%	75.7%	94.5%	98.9%	99.6%
全 体	87.1%	83.6%	96.8%	99.5%	99.8%

(注 1) 平成 19 年 12 月に「随意契約見直し計画」(18 年度契約分)を策定。

(注 2) 少額随意契約に係るものは除く。

- 一般競争入札については、価格と品質が総合的に優れた者を落札者とする「総合評価落札方式」を導入することとし、平成 22 年 5 月に実施要領を定めるとともに、『万博公園情報紙』制作・配布業務』1 件について、「総合評価落札方式」による入札を実施した。
- 公募及び企画競争の手続きについては、企画競争実施委員会を平成 22 年度は 11 回開催し、16 件の企画競争及び公募事案について審査を行った。
- 随意契約については、「独立行政法人の契約状況の点検・見直し」(平成 21 年 11 月 17 日閣議決定)を受けて、平成 20 年度において締結した随意契約について点検・見直しを行い、平成 22 年 5 月に新たな随意契約の見直し計画を策定し、機構ホームページで公表した。

この見直しの中で、電力供給については、平成 22 年度まで長期特約契約であり、途中解約した場合に多額の違約金が発生するため、随意契約によらざるを得ないものとしていたが、当該期間の終了をもって、平成 23 年度契約分から一般競争入札に移行した。

随意契約等見直し計画(平成 22 年 5 月)

	平成 20 年度実績		見直し後	
	件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)
競争性のある契約	(90.7%) 78	(81.6%) 1,369,845	(93.0%) 80	(95.5%) 1,602,081
競争入札	(60.5%) 52	(55.5%) 931,520	(70.9%) 61	(75.7%) 1,270,007
企画競争、公募等	(30.2%) 26	(26.1%) 438,326	(22.1%) 19	(19.8%) 332,074
競争性のない随意契約	(9.3%) 8	(18.4%) 308,012	(7.0%) 6	(4.5%) 75,776
合 計	(100%) 86	(100%) 1,677,857	(100%) 86	(100%) 1,677,857

(注 1) 見直し後の随意契約は、真にやむを得ないもの。

(注 2) 金額は、それぞれ四捨五入しているため合計が一致しない場合がある。

- 随意契約の適格性を審査するための「随意契約適格審査会」については、該当案件がなかったため、平成 22 年度は開催しなかった。
- 競争性のない随意契約に係る契約手続の運用状況等について、平成 22 年 12 月に開催した契約監視委員会において、平成 22 年度上半期の競争性のない随意契約、一者応札・一者応募になった案件を中心に点検が行われ、問題点として指摘される事案はなかった。(平成 22 年度下半期分については平成 23 年 6 月 3 日に開催)

(参考) 契約監視委員会における点検内容の内訳 (全体 50 件)

1	随意契約の見直し計画 (22 年 5 月公表) のうち、 20 年度契約における競争性のない随意契約	8 件
2	一者応札・一者応募契約	19 件
3	22 年度上半期における競争性のない随意契約	2 件
4	一者応札・一者応募契約	10 件
5	21 年度以前に締結した競争性のない随意契約のうち、 22 年 4 月においても継続している契約	0 件
6	一者応札・応募契約	11 件

(注) 上表 3 の契約 2 件は、官報公告にかかる掲載契約及び会計監査人との監査契約である。

- 監事による平成 22 年度の監査計画において「随意契約見直し計画の実施状況を含む入札及び契約の状況」が監査重点事項とされており、平成 22 年度上半期分の契約案件について、平成 22 年 10 月 25 日及び 26 日の 2 日間、監事監査(随時)を受けた。

その結果、入札・契約は「全体として契約規程等の規程、細則等に従い、適正に実施されていると認められる。」との評価を受けた。

③公園敷地の有効活用等

- 管理区域内の未利用地については、有効活用の観点から、土地貸付等により収益の確保に一層努めることとし、これまでに社会福祉施設の用地として 4 件の定期借地権設定を締結してきたが、これによる平成 22 年度の貸付料収入は年間約 51 百万円となり、土地の有効活用を図るとともに、安定的な収益の確保に寄与した。
- また、その他未利用地に係る平成 22 年度中の新規の貸付として、次の 2 件の貸付を行い、これによる平成 22 年度の貸付料収入は年間約 1.7 百万円となった。
 - ・万国橋耐震補強工事現場事務所用地
(貸付期間：H22. 4. 1～H23. 3. 25、貸付金額：1, 126, 925円<22年度分>)
 - ・住宅公園用臨時駐車場用地
(貸付期間：H22年8月(5日間)、H22年10月(5日間)、H23年1月(5日間)、貸付金額：527, 469円)
- ネーミングライツについては、万博記念競技場を対象に利用者(ガンバ大阪等)の意見、他の導入事例などを踏まえつつ実施の可能性について検討してきた。しかし、想定されるネーミングライツ売却代金とほぼ同額の広告掲出料をガンバ大阪から徴収していること、ガンバ大阪がサッカー専用球技場建設構想を検討していることなどから、ガンバ大阪とのネーミングライツに関する協議は進展させることはできなかった。

(3) 基金に関する事項

- 日本万国博覧会記念基金(以下「基金」という。)の運用に当たっては、長期金利が依然として低水準で推移する厳しい運用環境の中、安全性・確実性を前提に、流動性の高い国債、地方債を中心に運用を行うとともに、フルインベストメントに努めるなど、毎月の収支の状況を踏まえながら、運用益の確保に努めた。

【参考】

当機構の運用対象は、独立行政法人通則法第 47 条で、国債、地方債、政府保証債と規定されている。また、財務省告示第 615 号(平成 15 年 9 月 30 日)で、取得できる有価証券を以下のとおり指定されている。

- 1 特別の法律により法人の発行する債券
 - 2 金融債
 - 3 社債
 - 4 貸付信託の受益証券
- 平成 22 年度中に満期償還となった 24 億円(平均利回り 1.90%)を再運用し、国債、地方債、財投機関債等を 24 億円(平均利回り 1.59%)購入した。
再運用に当たっては、債券の保有期間や銘柄等に配慮した結果、平成 22 年度に再運用した債券の平均利回り(1.59%)は、新発 10 年物国債の平均利回り(1.17%)を 0.42%上回った。
以上の結果、平成 22 年度の全保有債券の平均利回りは 1.65%となった。

基金の運用状況

項目	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
運用収入額	328 百万円	320 百万円	314 百万円
運用資金平均残高	18,930 百万円	18,986 百万円	19,019 百万円
平均利回り	1.73%	1.69%	1.65%
キャッシュ保有割合	0.33%	0.47%	0.48%

(注)運用収入額には、償却原価額、未収利息を含んでいない。

2. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

(1)公園に関する事項

① 利用者に対するサービスの向上

イ ニーズの把握とニーズへの対応

■ニーズの把握

- 広く利用者の声を的確に把握するため、自然文化園・日本庭園の各ゲートに意見箱を継続設置し、平成 22 年秋から新たに施設や公園運営面等における満足度調査も実施した。また、主な四季イベント開催時の来園者調査、ボランティア等への聴取り調査、機構ホームページによるアンケート調査など各種調査により、延べ 3,946 人の来園者から意見等をいただいた。これら寄せられた声からニーズを把握・分析し、早急に対応可能なものは適切な対応を行った。

【アンケート調査結果】

① 意見箱の設置結果

➤投書数 : 149 人

➤投書内容と対応 : (主なもの)

- 園内 7 か所に設置した意見箱に投書された意見で、業務運営に反映できるものは早期に対応するように努めた。

来園者から寄せられた意見と対応（主なもの）

主 な 意 見 (要 約)	対 応 状 況
傍若無人なカメラマンへのマナー喚起を行ってほしい	四季折々の花のイベントに合わせ、会場内にカメラ撮影時のマナー喚起サインを設置した
園内に咲く花の開花状態をタイムリーに発信してほしい	園内に咲く花の開花状況の写真や映像を機構ホームページでタイムリーに発信した
わくわく池の冒険ひろばの遊具が鳥の糞で汚れている。定期的に清掃をしてほしい	当該遊具施設も清掃の巡回点検施設に組み入れ、汚れがあればその都度清掃した
日本庭園東地区のつつじヶ丘からはす池に降りる階段に手摺を設置して欲しい	平成 23 年 3 月、階段の両サイドに庭園の風格を損ねない手摺を設置した

② 公園の施設、運営状態の満足度調査（新規）

- 回収数：110人
- 調査期間：平成22年11月6日～平成23年2月27日（97日間）
- 調査場所：自然文化園・日本庭園各ゲート、総合案内所
- 調査結果、方針：（主なもの）

・満足度調査の項目としては、①各ゲート、総合案内所、レストラン・売店、駐車場、警備のそれぞれ係員の接客態度、②園路、休憩所、ベンチ、レストラン・売店、トイレの清掃状態、③草花、樹木、芝生の管理状態、④園内誘導サインの整備状況についての満足度調査を新たに実施した

・上記①から③の調査結果のうち、大半の項目で「よい・ややよい」と回答した方が95%以上占めた。一方、満足度が90%台であった項目は、警備員の接客態度、トイレの清掃状態、園内誘導サインであり、今後サービス向上に向けた対策を講じていくこととした

③ 春季と秋季の来園者アンケート調査結果

- 回収数：1,250人
- 調査日：5月5日・10月23日
- 調査場所：自然文化園各ゲート（中央口、日本庭園前、東口、西口）
- 調査結果：（主なもの）

・来園者の約6割が「10回以上」のリピーター層であったほか、公園に初めて来園された方が年々漸増している。これは、四季折々の花の見どころ整備が功を奏しているほか、間断なく多彩なイベントを実施していることに加え、毎月公園だよりを各家庭に直接配布した広報強化の成果と分析する

④ 四季折々のイベント開催時のアンケート調査結果

- 回収数：延べ1,982人
- 標本数：12種のイベント
- 調査場所：各イベント会場
- 調査結果：（主なもの）

・イベント来園者の約6割が家族・親戚で、複数人が来園されている。特に平成22年度の「エコフェスタ」「イルミナイト万博(夏・冬)」では、家族単位での来園者数が増加したが、これは、ファミリー層が参加体験できるイベント内容としたことの成果と分析する

⑤ 機構ホームページ上のアンケート調査結果

- 回収数 : 335人
- 調査期間 : 8月25日～9月27日 (34日間)
- 調査結果、方針 : (主なもの)

・ホームページデザイン等の評価調査の結果、「良くなった」との回答率が前年度より6ポイント上昇した。これは、平成22年2月にデザインをリニューアルしたことによる成果と分析する(前年度は49%、平成22年度は55%)

・また、ホームページで今後充実を希望する情報としては、「詳細なイベント情報」が最多で、次いで「大阪万博に関する情報」「タイムリーな開花情報」「レストラン情報の充実」となった。今後、これらの情報を中心にホームページの充実を行うこととした

⑥ 公園ボランティア活動者への聴き取り調査

- 回収数 : 延べ120人
- 調査期間 : 8月27日～11月28日 (89日間)
- 調査方法 : ボランティア活動終了時に聴き取り
- 調査結果、対応 : (主なもの)

・ボランティア活動参加の動機・目的の設問で前年度と比較し、伸び率が高かった項目は「万博公園が好きだから(前年度より10ポイントアップ)」、「自分の技術や能力、経験を活動にいかしたい(前年度より6ポイントアップ)」であった。今後はこれら目的に合致したボランティア活動の募集を行うこととした

・ボランティア活動に対しては、8割以上が満足していた。また、今後における活動の継続意志も9割以上を占めていた

■ニーズへの対応

【利用者のニーズに応える施設整備や各種イベントの開催状況】

○平成21・22年度の来園者アンケート調査結果を踏まえ、以下の対応を実施した。

➤希望が多かったイベントの拡充

- ・催物の最多希望の「夏の納涼祭り」の拡充では、イルミナイト万博「なつやすみ」として、盆休みの2日間(休日)を追加し延べ4日間を午後9時まで開園した結果、入園者が前年度より大幅な伸びを示した。今後とも夏の夜間開園日数、参加型イベント(持ち込み花火の体験等)の充実を図ることとした。
- ・イルミネーション装飾の規模拡大の要望に対しては、平成22年度にLED電飾球約12万球を新たに購入し、次年度におけるイルミネーション規模を大幅に拡大することとした。
- ・大阪万博に関するイベントでは、平成23年2月が岡本太郎生誕100年にあたることから、同氏が博覧会当時テーマ館のチーフプロデューサーとして太陽の塔を制作後、平成4年の太陽の塔改修時に更新した「黄金の顔」の鋼板を組み立てたものをEXPO'70パビリオンホワイトエに展示した(3/5～5/10)。多くのマスメディアに取り上げられたことから、会期中約50,000人が来場した。
- ・健康増進イベントでは、平成22年から初めて開催した「ノルディックウォーク」が、中高年齢層に大きな反響があった。今後、当公園の園路についてインターナショナルノルディック

クコースの認定申請を行うこととした。

➤ 便益施設等の充実

- ・四季の花イベント調査の結果、花のスポット会場内へのベンチ増設要望が多かったことから、自然文化園花の丘・チューリップの花園及び桜の流れにそれぞれ増設した。

➤ 広報宣伝関係

- ・ホームページ調査及び来園者調査の結果、「公園だよりも毎月手元に届いた際には、公園に来園したい」との回答者が8割を超えていた。このため、公園事業の認知度向上と集客増を図るため、平成22年5月から毎月60万部を各家庭に直接配布した。

また、公園沿線の電鉄駅、公共施設等にも8万部（4月から8月まで5万部）を配布した。

- 平成22年度は「日本万国博覧会開催40周年」にあたるため、新規の周年事業に加え、毎年間断なく実施している四季折々の花の見ごろに合わせたイベント等の開催、参加型のスポーツ大会など、年間を通じて様々なイベント等を実施し、利用者の満足度を高めた。

[主なイベント、新規イベントは以下のとおり]

イベント名・開催期間	開催場所・イベント内容	入園者・利用者数等 ()は前年度数
万博開催40周年記念 桜まつり 4月1日(木) ~11日(日) ※平成22年の桜まつり 期間は、3/27(土) ~4/11(日)	サクラの開花に合わせ、「東大路通り桜並木」を中心に桜まつりを開催した ・会期中は18時から21時までサクラのライトアップを行ったほか、同会場 で全国大陶器市を併催した	自然文化園 223,792人 (219,549人) 対前年比 +1.9% =夜間入園者数= 28,114人 (23,685人) 対前年比 +18.7% [増加理由] 会期中の前半から桜が満開となったことにより増となった
チューリップフェスタ 4月10日(土) ~25日(日)	自然文化園「チューリップの花園」に咲く25品種11万球のチューリップの見ごろに合わせイベントを開催した ・レストラン「パークカフェ」ではフェスタに因んだスペシャルメニューを提供した	自然文化園 149,766人 (184,640人) 対前年比▲18.9% [減少理由] 昨年度は日蘭通商400周年記念イベントを実施したことにより多かったが、本年は実施しなかった事により減じた
ポピーフェア 4月10日(土) ~29日(木・祝)	自然文化園「花の丘」に咲く35万本のオレンジ、ピンク色のアイランドポピーなどの見ごろに合わせてイベントを開催した ・イベント会場までのアクセス向上として会期中「森のトレイン臨時停留所」を同会場近く設けた	自然文化園 172,121人 (184,640人) 対前年比▲6.8%

<p>ロハスフェスタ 4月24日(土) ～25日(日)</p>	<p>自然文化園「東の広場」にて環境啓発イベントを開催した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロハスな生活空間の紹介と展示 ・会場内で販売する飲食はすべてリユース食器を使用。マイ箸、エコパックの持参を事前に呼び掛けた ・家庭から発生する植物性廃食油、牛乳パックの回収を行った 	<p>自然文化園 61,603人 (22,704人) 対前年比 +171.3% [増加理由] イベントの定着と主催者発行のタウン紙による宣伝効果により大幅増となった</p>
<p>FM802 FUNKY MARKET 5月2日(日)</p>	<p>「お祭り広場」でFM802のDJや番組スタッフも出店参加するリスナー約200組によるフリーマーケットを開催した</p>	<p>自然文化園 34,299人 (32,134人) 対前年比 +6.7% [増加理由] 主催者のFM802ラジオ放送によるPR効果に加え、好天に恵まれたため増となった</p>
<p>環境 EXPO 2010 5月4日(火・祝) ～5日(水・祝)</p>	<p>自然文化園「上の広場」「下の広場」で幅広い世代層にイベントへの参加、体験から「環境保全」の意識高揚を目的としたイベントを開催した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭で不用となったおもちゃなどを持ち込み、子ども達だけで商品売買する「キッズエコマーケット」を行った ・公園で活動しているNPO団体による資源循環型社会の形成を目指した公園づくりの事例紹介や園内における活動現場の見学などを行うエコラリーも同時開催した <p>[万博公園賑わい創出支援事業]</p>	<p>自然文化園 39,492人 (31,561人) 対前年比 +25.1% [増加理由] 産経新聞での当該イベントの告知効果に加え2日間好天に恵まれたため増となった</p>
<p>万博開催40周年記念 プラスエクスポ2010 「輝け未来へ大空へ [世界の国から]」 5月9日(日)</p>	<p>自然文化園「お祭り広場」「太陽の広場」「園内一円」で、近畿2府4県の関西吹奏楽連盟加盟120団体約6,000人のプラスバンド演奏会を開催した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年は万博40周年にあたることから、太陽の広場で演奏会を行ったほか「EXPO40周年こんにちはパレード」を行った <p>[万博公園賑わい創出支援事業]</p>	<p>自然文化園 20,016人 (20,941人) 対前年比▲4.4%</p>
<p>ローズフェスタ 5月8日(土) ～30日(日)</p>	<p>自然文化園「平和のバラ園」で、世界9カ国から寄贈された貴重な品種を含む84種約5,600本のバラの開花に合わせた多彩なイベントを開催した</p>	<p>自然文化園 129,532人 (83,312人) 対前年比+55.5%</p>

	(休日イベント) ・押し花教室 (毎週土曜先着 100 名) ・バラ園コンサート (毎週日曜日)	[増加理由] 昨年は新型インフルエンザ感染拡大防止による外出自粛の影響を受けたが、本年は平年ベースに戻った
螢の夕べ 5月29日(土) ～6月8日(火) [6/2(水)休園]	日本庭園西地区流れに自生するゲンジボタル、ヘイケボタルの観賞会(午後9時30分まで開園時間延長)を開催した	日本庭園 13,598人 (39,142人) 対前年比▲65.3% [減少理由] 会期中は低温が継続したため来園者が大幅に減じた
万博開催40周年記念 万博サイエンスフェスタ 5月30日(日) <u>[新規]</u>	自然文化園「自然観察学習館前芝生広場」で野外の理科実験を開催した ・ドラム缶つぶし、音のふしぎ、風船ロケット、地球の温度など	参加者 3,600人
あじさい祭 6月5日(土) ～27日(日)	自然文化園「あじさいの森」、「桜の流れ」で30品種約4,500株のアジサイが咲き誇る会場で各種イベントを開催した ・アジサイの開花に合わせ、会期中の6/5～13にはあじさいを季題とした俳句を募集した。また、入選句は、あじさいの森及び桜の流れにて紹介した(6/18～27)	自然文化園 64,473人 (75,756人) 対前年比▲14.9% [減少理由] 会期中の2日間の休日が雨となったことに加え、昨年は新型インフルエンザによる外出自粛の反動で6月期は増加したが、本年は平年ベースに戻った
ラベンダーフェスタ 6月12日(土) ～27日(日)	自然文化園「ラベンダーの谷」で9品種4,000株のラベンダーが咲き誇る会場でイベントを開催した ・会期中の土曜日には、先着100名にしおりの押し花、20名にラベンダーステック作りの体験教室を行った	自然文化園 36,114人 (51,942人) 対前年比▲30.5% [減少理由] あじさい祭と同様の理由
北欧の音楽ピクニック 6月20日(日) <u>[新規]</u>	自然文化園「上の広場」、「ラベンダーの谷」、「月桂樹の丘」で北欧の音楽会等を開催した ・北欧の白夜の時期(6月)に合わせ、北欧音楽とワークショップ、お洒落なショップ出店など、終日快い音楽と北欧文化に触れるイベントを行った <u>[万博公園賑わい創出支援事業]</u>	自然文化園 5,801人

<p>万博開催 40 周年記念 ブーメランの実演& 体験レッスン 7月3日(土) ・4日(日) [新規]</p>	<p>自然文化園「太陽の広場」で、日本万国博覧会の会期中に、オーストラリアのナショナルデー(5/8)で、ブーメランショーを披露したブライアン氏を40年ぶりに万博公園に招き、博覧会で演出したブーメラン妙技と教室を行った</p>	<p>参加者数 90人</p>
<p>早朝観蓮会&象鼻杯 7月2(金)、3日(土)、 4日(日)、9日(金)、 10日(土)、11日(日)、 16日(金)、17日(土)、 18日(日)、 19日(月祝) [平日3日間新規 ・休日7日間]</p>	<p>日本庭園「はす池」で26種約1,200株の花ハスの開花に合わせ、早朝6時からの開園を実施した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来園者アンケート調査で「平日にも早朝開園を行って欲しい」とのニーズに応えるため、早朝観蓮会の開催期間中の毎週金曜日にも早朝開園を行った ・観蓮会に来園された方には、「万博特製うちわ」をプレゼントしたほか、酒造会社よりお酒の提供を受け、象鼻杯(300名/日)とハス酒(100名/日)の試飲会を行った 	<p>日本庭園 5,997人 (9,691人) 対前年比▲38.1% [減少理由] 昨年に比べ花の開花が遅れたことや、10日間の開催のうち4日が雨などの悪天候により、入園者が減じた</p>
<p>「イルミナイト万博」 なつやすみ 8月7日(土) 8日(日) 14日(土) 15日(日)</p>	<p>自然文化園「太陽の広場」、「東大路通り」、「下の広場」、「東の広場」で夜間開園に合わせLED照明装飾を実施した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太陽の広場では、約700個のLED内蔵の風船を上げるアート作品を展示した ・東大路通りの桜並木に約10万個のLEDを使って、ワイングラス形のデザイン装飾を行った ・環境啓発イベントとして定着している「サマーロハスフェスタ」を東の広場で実施した(7日・8日) ・茨木辯天納涼花火大会(8/8)に合わせ、自然文化園で花火観賞会を行った ・8月14日、15日は、お祭り広場で公園開設以来初の試みとして「手持ち花火」を、各家族に楽しんでもらった 	<p>自然文化園 44,786人 (25,785人) 対前年比+73.7% [増加理由] 昨年度より2日間開催日数を増加したことに加え、新聞掲載、公園だより、折込ちらし、リーフレットの近隣幼稚園配布など広報宣伝効果があった。また、手持ち花火の場を提供したことにより、大幅増となった</p>
<p>万博開催 40 周年記念 ファミリーオートキャンプ&インターナショナルキャンプ 8月11日(水)</p>	<p>公園開設以降、初の実施となる自然文化園「東の広場」、「上の広場」にてキャンプを開催した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリーオートキャンプは東の広場に85家族(車台数)380人が、 	<p>自然文化園 1,044人 (2日間の累計)</p>

<p>・12日(木)</p> <p><u>[新 規]</u></p>	<p>各自の自家用車の後方にキャンプテント等を張り公園で宿泊した</p> <p>・インターナショナルキャンプは上の広場に30張りのテントを設置し、142名(小学生123人、中学生10人、保護者9人)が公園で宿泊した。また、2日間の日程で、ハンターゲーム、インストラクター(留学生)によるお国自慢話、ナイトウォーク、木工教室、自然科学実験など野外体験学習を行った</p>	
<p>万博開催40周年記念 わくわく体験昆虫展 2010 7月17日(土) ～8月29日(日)</p> <p><u>[新 規]</u></p>	<p>自然文化園「世界の森」、「EXPO'70パビリオンホワイエ」で開催した</p> <p>・世界の森に仮設テントを設置し、生きた蝶・昆虫を身近に観察、触れ合える体験展示を行った</p> <p>・EXPO'70パビリオンホワイエでは、世界各地の昆虫標本を展示した。また、ヒマラヤに生育する昆虫標本との関連づけを行うため、ヒマラヤ絵画の展示も併催した</p>	<p>自然文化園 2,992人 (38日間の累計)</p>
<p>ひまわりフェスタ 7月31日(土) ～8月22日(日)</p>	<p>自然文化園「チューリップの花園」で23品種約10,000株のひまわりの開花に合わせて開催した</p>	<p>自然文化園 94,972人 (76,968人) 対前年比 +23.4%</p> <p><u>[増加理由]</u> 会期中のサマーロハス、イルミナイト万博との相乗効果による増となった</p>
<p>万博開催40周年記念 おとなの社会見学 ～万博公園 EXPO'70を語る 9月13日(月)</p> <p><u>[新 規]</u></p>	<p>「EXPO'70パビリオン」及び「自然文化園」を使って、大阪万博の閉幕日(9/13)に相応しいイベントを開催した</p> <p>・読売新聞大阪本社と共同で、新聞にて事前募集した参加者(45名)を対象に、パビリオン跡地を巡るラリー教室を実施した。また、博覧会会期中に働いていた方々の参加も仰ぎ、当時の懐かしいエピソードなどを盛り込んだ</p>	<p>自然文化園 45人</p>
<p>日露交歓コンサート 2010 9月19日(日) 自然文化園中央休憩所</p>	<p>「上の広場」、「生活誕生館」でチャイコフスキー記念国立モスクワ音楽院の教授、卒業生が、本場のクラシック音楽を演奏した</p>	<p>自然文化園中央休憩所 300人</p>

9月20日(月・祝) 生活誕生館 DILIPA	<u>〔万博公園賑わい創出支援事業〕</u>	生活誕生館 DILIPA 110人
ユナイテッド・アース フェスティバル 10月9日(土)・ 10日(日) <u>〔新規〕</u>	「お祭り広場」でNPO団体による地球 環境保全の啓発、音楽と踊りのステー ジを実施した	自然文化園 7,941人
エクソダス・サンデーマー ケットエキスポ'10 10月17日(日)	「下の広場」で都市における資源循環 型などをテーマとしたリサイクルシ ョップ、交流音楽会、緑の中での健康 増進体験などを開催した	自然文化園 17,457人
EXPO'70パビリオン 特別展 「人類の英知を集め て」 10月3日(日) ～24日(日) <u>〔新規〕</u>	「EXPO'70パビリオン」で大阪万博 に関連した展示会を開催した ・博覧会会場の造成模様、その後の会 場建設、そして生物多様性に富んだ 公園づくりへの変遷をパネルで紹介 した ・40年前の博覧会当時の技術が現在 どのように進歩し活用されている のかを実物・映像等で比較展示した <u>〔万博公園賑わい創出支援事業〕</u>	入館者数 6,300人
コスモスフェスタ 10月9日(土) ～11月3日(水・祝)	自然文化園「花の丘」で8品種約30 万本のコスモスが花の丘一面に咲き 誇るなか各種イベントを開催した ・会期中の休日には、コスモスの花を 使った押し花、エコバック、ハガキ 作り、楽器演奏会、大道芸を行った	自然文化園 160,513人 (199,609人) 対前年比 ▲19.6% <u>〔減少理由〕</u> 夏の猛暑の影響によりコスモ スの開花が遅れた。また、休 日の悪天候が重なったことに より来園者が減少した
紅葉まつり 10月30日(土) ～11月28日(日)	「日本庭園・自然文化園」の紅葉の見 ごろにあわせ各種イベントを開催し た ・会期中、日本庭園の茶室「汎庵」の 特別公開を行ったほか、「千里庵」 で紅葉弁当のサービスを行った ・日本庭園中央休憩所前では吹田市菊 花連盟が大菊の総合花壇を展示し た ・11月3日、28日の休日には、古典 曲独楽や詩吟を行い来園者の満足 度を高めた	自然文化園 253,106人 (187,653人) 対前年比 +34.9% <u>〔増加理由〕</u> ・紅葉が例年以上に綺麗だっ た事に加え、公園だより等の PR効果と関西文化の日の相乗 効果により大幅増となった
エコフェスタ in EXPO Park 1月6日(土)	自然文化園「お祭り広場」、「上の広場」 で環境啓発イベントを開催した ・お祭り広場では、リサイクルフェア、	自然文化園 18,350人 (22,226人)

・7日(日)	リユースマーケット、企業の環境商品の展示などの出展を行った ・また、上の広場では園内で活動する NPO 団体の環境啓発ブースの出展を行った	対前年比 ▲17.4 % [減少理由] 7日(日)の天候が悪く来園者が減少した
ロハスフェスタ 11月13日(土)・ 14日(日)	自然文化園「東の広場」で低炭素化社会、資源循環型社会を実践し啓発する「エコ」をテーマとしたフェスタを開催した ・飲食に使用する食器は全てリユース食器を使うことやマイ箸・エコバックの持参など、ゴミゼロエミッションの取り組みを行ったほか、林業活性化施策の一環として、木造住宅の柱組の実物展示を行った	自然文化園 46,945人 (64,004人) 対前年比 ▲26.7 % [減少理由] 天候不順に加え、本年は11月開催のため減少した(昨年10月開催でコスモスフェスタの相乗効果があった)
関西文化の日 (入園・入館無料デー) 11月20日(土)・ 21日(日)	関西文化の日の趣旨に賛同し、「日本庭園・自然文化園」、「国立民族学博物館」(常設展+特別展)、「大阪日本民芸館」(特別展は除く)、「EXPO'70パビリオン」の入園(館)を無料とした	自然文化園 75,655人 (43,778人) 対前年比 +72.8% [増加理由] 晴天(2日間)に加え、紅葉が見頃と重なった。また、ABCラジオや公園だより等のPR効果により大幅増となった
吹田70周年記念 フェスタ 11月20日(土) <u>[新規]</u>	自然文化園「東の広場」で吹田市制70周年を記念し吹田市と当機構との連携事業を開催した ・太鼓やチアリーダーなどのステージ展開や市民団体の模擬店、ミニSL・移動動物園、サッカー・野球教室を実施した	自然文化園 23,085人
A B C ラジオまつり 2010 11月21日(日)	自然文化園「お祭り広場」でABCラジオの人気パーソナリティ道上洋三氏による生公開放送によるトークショーなどのステージイベントのほか、ラジオまつり屋台村等の出店を行った	自然文化園 52,570人 (37,241人) 対前年比+41.2% [増加理由] 晴天に加え、ABCラジオ開局60周年として例年になく事業規模の拡大を図ったことにより大幅増となった
夢のたね2010年 Osaka 祝祭 12月4日(土) <u>[新規]</u>	自然文化園「東の広場」で子ども達の夢を共有するイベントを開催した ・本年の夏から子ども達に、もみじの種の形をした用紙に「未来の夢・希	自然文化園 4,518人

	<p>望」を書き込むワークショップを府下にて実施し、約 20,000 個の「夢の種」を制作した。さらに、この種に発光 LED (多色) を埋め込み、日没後、上空 15m まで上げた熱気球のゴンドラから地上に夢の種を落下させた。落下した「夢の種」は、参加者全員に配り夢の交換を行った</p> <p>[万博公園賑わい創出支援事業]</p>	
<p>イルミナイト万博 X' mas 12月23日(木・祝) ～26日(日)</p>	<p>自然文化園「太陽の広場」、「お祭り広場」、「下の広場」でクリスマスイベントを開催した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太陽の広場では大小の 500 個の LED 発光体を内蔵した風船をあげ、宇宙空間を演出した ・東大路通りの桜並木には 7 万個の LED 電飾を装着し、幻想的なイルミストリートを演出した ・お祭り広場では、3 万個の LED 電飾を使ったクリスマスツリーを模した大型迷路を設置したほか、子どもたちに人気のある遊具を併設した 	<p>自然文化園 21,050 人 (12,174 人) 対前年比+72.9%</p> <p>[増加理由] クリスマスイベントが定着してきた事に加え、イルミ装飾とイベント内容の充実、広報宣伝強化の効果により大幅増となった</p>
<p>2011 年 ニューイヤーフェスタ 1月9日(日)</p>	<p>自然文化園「東の広場」、「上の広場」無料休憩所で和風の手作り教室、紙飛行機教室、凧上げコンテスト、大トンド焼きなどを開催した</p>	<p>自然文化園 4,029 人 (3,821 人) 対前年比+5.4%</p>
<p>雪まつり 2月11日(金・祝)、 12日(土)、 13日(日)</p>	<p>自然文化園「お祭り広場」で天然雪、人工雪を使ったイベントを開催した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県宍粟市から天然雪約 120 m³を持ち込み、人工降雪によるスベリ台を 4 連設置し、子どもたちに好評を得た ・焼き芋に加え、初めて猪鹿鴨汁を先着 200 名に提供した 	<p>自然文化園 21,791 人 (18,271 人) 対前年度比 19.3%</p> <p>[増加理由] 各種広報(テレビ・新聞・新聞折込チラシ [45 万枚]・公園だより [65 万枚]) の効果に加え、本年は 3 日間の連続開催により増となった</p>
<p>梅まつり・つばき祭 2月19日(土) ～3月13日(日)</p>	<p>[梅まつり]=自然文化園「梅林」・日本庭園「梅林」で開催した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会期中の金・土・日に水車茶屋で梅関連商品の販売を行った <p>[つばき祭]=自然文化園つばきの森で開催した</p>	<p>自然文化園 127,018 人 (70,531 人) 対前年比+ 80.1%</p> <p>日本庭園 27,670 人 (18,799 人) 対前年比+ 47.2%</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・梅まつりと同時期の開催とした他、自然文化園梅林でつばき祭のPRを行った結果多数の来園者が“つばきの森”を觀賞した 	<p>[増加理由]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年は両イベントの設定期間中に無料デーが加わったことや、広報効果が十分に発揮された事により大幅増となった
<p>EXPO' 70 パビリオン 「太陽の塔黄金の顔展」 3月5日(土) ～5月10日(火)</p> <p><u>〔新 規〕</u></p>	<p>「EXPO' 70 パビリオン」で開館1周年、岡本太郎生誕100年を記念して開催した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成4年、太陽の塔改修の際に取り外した黄金の顔の鋼板を組み立て展示した。また、当時の改修工場の記録映像も上映した ・万博マニア所有の珍品コレクションや華やかなパビリオンユニホームなども展示した <p>[万博公園賑わい創出支援事業]</p>	<p>入館者数 (3/5～3/31) 16,688人</p> <p>[参考] 入館者数(3/5～5/10) 50,231人</p>
<p>万博公園ふれあいの日 (無料デー) 3月13日(日)</p>	<p>日本万国博覧会の開催日(3月15日)を記念して、「自然文化園・日本庭園」、「国立民族学博物館」、「大阪日本民芸館」(特別展を除く)の入園(館)料を無料とした</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月11日に発生した東日本大震災により、当初予定していた開局60周年「ABCラジオスプリングフェスタ2011」及び「ABC万国博ハーフマラソン2011」を中止した 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然文化園 33,745人 (71,283人) 対前年比▲ 52.7% ・日本庭園 4,724人 (5,953人) 対前年比▲ 20.6% <p>[減少理由] 東日本大震災に伴いABC放送のイベントを全て中止したため大幅減となった</p>
<p>チャリティーキッズ 3月19日(土) ～21日(月・祝)</p> <p><u>〔新 規〕</u></p>	<p>「お祭り広場」、「上の広場」、「下の広場」で「キッズFESTA in 万博公園」として当初実施予定にあったが、東日本大震災に伴い、義援活動とした「チャリティーキッズ」に変更し実施した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場内「お祭り広場」、「下の広場」に募金箱を設置すると共に、各出店者にも義援金の寄付を募った。[義援金2,401,960円は、日本赤十字社に寄付] <p>また、被災地で不足している紙おむつ、電池、ロウソク等の義援物資の募集も同時に行った。[救援物資13種42,506個は、NPO団体を通じて仙台に寄付]</p>	<p>自然文化園 24,849人</p>

<p>桜まつり 3月26日(土) ～31日(木)</p> <p>※平成23年の桜まつり 期間は、 3/26(土)～4/10(日)</p>	<p>自然文化園「東大路通り」のソメイヨシノ桜並木の開花に合わせ、桜まつりを開催した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桜まつり会期期間中の3月26日から4月8日までは、東日本大震災に被災された方々への哀悼の意を表すため、太陽の塔のライトアップ等を消灯した ・会期中は18時から21時まで、サクラのライトアップを実施すると共に、同会場で全国大陶器市を併催した ・本年より、東の広場西側の東大路桜並木に省エネタイプのLED投光器55台を新たに設置し、夜桜会場の照明演出を高めた 	<p>自然文化園 35,160人 (44,938人)</p> <p>対前年比 ▲21.8%</p> <p>=夜間入園者数= 578人 (3,549人)</p> <p>対前年比 ▲83.7%</p> <p>[減少理由] 桜の開花が昨年に比べ8日程度遅れたことや、震災後のイベント参加者の自粛により大幅減となった</p>
--	---	---

○ スポーツ施設における主なスポーツ大会の実施実績は次表のとおりである。

イベント名・開催期間	開催場所・イベント内容	入園者・利用者数等 ()は前年度数
<p>2010 万博ナイター陸上競技大会 8月3日(火)</p>	<p>場所：万博記念競技場 主催：万博機構 主管：大阪陸上競技協会 内容：小・中学生を対象とした公認のナイター陸上競技大会</p>	<p>中学生 1,971人 小学生 200人 合計 2,171人 (1,877人)</p> <p>対前年度比 +15.7%</p> <p>[増加理由] 本年度で6回目となり、周知効果による増となった</p>
<p>2010 万博ミズノ杯万博クロスカントリー大会 12月23日(木・祝)</p>	<p>場所：万博記念競技場及び自然文化園特設クロスカントリーコース 主催：万博機構 共催：ミズノ(株)内容：10km、5km、3kmの一般・中高生・ファミリーを対象としたクロスカントリー大会</p>	<p>参加者数 4,159人 (3,880人)</p> <p>対前年比 +7.2%</p> <p>[増加理由] ジョギングブームを背景に増した</p>
<p>2011 万博長距離記録会 2月20日(日)</p>	<p>場所：万博記念競技場 主催：万博記念機構 主管：大阪陸上競技協会 内容：小・中・高校生を対象とした長距離記録会</p>	<p>高校生 17人 中学生 499人 小学生 160人 合計 676人 (563人)</p> <p>対前年比 +20.1%</p> <p>[増加理由] 本年度で6回目となり、周知効果により増となった</p>

【民間知見の活用】

- 自然文化園もみじ川芝生広場の野外コンサートについては、平成22年1月機構ホームページでコンサート事業者を募集した。これにより、在阪放送局を始め音楽イベント会社から5件の応募があり、次表のとおり実施した。

(会場：もみじ川芝生広場)

開催日	コンサート名&会場	入場者数 ()は前年数
7月25日(日)	FM802 MEET THE WORLD BEAT2010	15,850人 (18,338人)
7月31日(土)	アサヒビール presents 情熱大陸 SPECIAL LIVE SUMMER TIME BONANZA' 10	16,008人 (16,200人)
8月22日(日) 新規	FM802×FMCOCOLO RAINBOW JAMBOREE	9,425人 (昨年なし)
8月29日(日) 新規	SUMMER SOUND TERMINAL 2010	7,922人 (昨年なし)
9月11日(土)	朝日新聞 LIVE in expo' 70 風に吹かれて2010	6,587人 (6,335人)
計		55,792人 (78,221人) 対前年比 ▲28.7%

【各メディアの放映・掲載状況】

- パブリシティ活動としては、平成22年10月に名古屋で開催された「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」の併催事業である生物多様性交流フェアへの出展参加に先立ち、当公園における生物多様性への取組や生息状況のほか、四季に咲く花の見ごろやイベントなどの情報提供を、大阪府政記者クラブと吹田市記者クラブにタイムリーなプレスリリースを行った。さらにはタウン紙、雑誌、鉄道沿線紙の発行元にも、積極的に情報提供を行うなど、幅広い広報活動に努めた。

プレスリリース回数	プレスリリース内容
31回	1. チューリップフェスタ 2. ポピーフェア 3. オオタカ営巣 4. 40周年記念事業 5. プールガーデン再開 6. ルピナスフェスタ 7. 螢の夕べ 8. メリープロジェクト 9. 花ショウブ見頃 10. ブーメラン実演 11. 早朝観蓮会&象鼻杯 12. わくわく体験昆虫展 13. イルミナイト万博なつやすみ 14. ひまわりフェスタ 15. 木彫りのふくろう 16. モリアオガエル産卵 17. オオタカ巣立ち 18. セミ抜け殻調査結果 19. EXPO' 70 パビリオン特別展「人類の英知を集めて」 20. コスモス見頃 21. バラ見頃 22. エコフェスタ 23. 紅葉見頃 24. 花の写真コンテスト入賞作品決定 25. イルミナイト万博X' mas 26. ニューイヤーフェスタ 27. イサム・ノグチ作「夢の池噴水」塗装復元工事着手 28. 雪まつり 29. 太陽の塔黄金の顔展 30. 梅見頃 31. ソメイヨシノ開花

平成22年度における放映・掲載状況は次表のとおりである。

メディア	平成21年度 放映・掲載件数	平成22年度 放映・掲載件数	前年度対比
新聞 (読売、朝日、毎日、産経、日経、 大阪日日他)	311件	300件	▲ 3.5%
テレビ (NHK、朝日放送、毎日放送、 関西TV、CATV他)	149件	77件	▲ 48.3%
ラジオ、ミニコミ紙、雑誌、フリ ーペーパー (ABC、MBS、FM802、FM851、 関西1週間、シティライフ他)	390件	419件	+ 7.4%
計	850件	796件	▲ 6.4%

【全国・海外への情報発信】

- 平成22年度は、大阪万博40周年、花博20周年、上海万博大阪出展の年にあたることから、世界の子どもの笑顔がプリントされた傘を広げるイベント「MERRY in OSAKA—“Merryな笑顔”で元気な大阪を！」を太陽の塔前広場等で実施した状況が、NHKで全国放送された。
- 万博記念公園もみじ川芝生広場で開催された野外コンサート「FM802 MEET THE WORLD BEAT 2010」がスカイパーフェクトTVで全国に生中継で放映されたほか、「情熱大陸 SPECIAL LIVE 2010」がTBSにて全国放送された。
- NHK歌謡番組「思い出のメロディ」で、40年前の大阪万博の年に流行したフォークソング「戦争を知らない子どもたち」を、太陽の広場でライブ中継した模様が全国放送された。
- 平凡社と連携しEXPO'70パビリオンのオフィシャル図録集を11月25日に刊行した。
全国の有名書店で販売しているほか、EXPO'70パビリオン売店でも販売を行っている(3/31までで約4,000冊販売)。
- 訪日外国人観光客(台湾・韓国・香港等)への情報誌として、大阪・京都・神戸の観光スポットを案内した創刊号に、万博記念公園の情報を掲載した。(12/10創刊・12万部発行[配布先: 関空、ホテル等8万部、海外観光所4万部])
- ホームページについては、平成22年12月までは英語のみのページを開設していたが、翌年1月から公園散策コース、大阪万博に関する新たな魅力ある情報を付け加え、4ヶ国語(日本語、中国語、韓国語、英語)のページ開設を行った。
- 当公園で活動しているNPO団体(スマイルパーク)と民間団体、当機構との協働で、日本万国博覧会の遺産巡りなどを掲載した、小学生向けの公園ガイド冊子を9万部発行した。
(東大阪市[7月配布]、豊中市[10月配布]、吹田市[12月配布]の小学生と教員に各3万部配布した。)
- 平成23年2月26日は岡本太郎生誕100年にあたり、これを記念し、NHK「土曜ドラマ[TAROの塔]」が全国テレビ放送(4回)された。この番組制作にあたり、太陽の塔、太陽の広場等をロケ地として提供した。また、マガジンハウスをはじめ雑誌編集各社から、太陽の塔の外観・内部の生命の樹の取材申請が多数あった。
さらには、東京国立近代美術館で「岡本太郎展(平成23年3月8日から5月8日)」が開催されたが、太陽の塔の図面などを展示物として提供した。

【ホームページアクセス件数】

ホームページアクセス件数の推移

年 度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
件 数	1,008,188 件	1,050,596 件	1,112,652 件	1,206,980 件
対前年比	+201,511 件	+42,408 件	+62,056 件	+94,328 件
率	25.0%増	4.2%増	5.9%増	8.5%増

ロ 入園者数・利用件数の目標

【公園事業の具体的取組み】

- 平成 22 年度は日本万国博覧会開催 40 周年を記念する年で、新規イベントや既存イベントの規模・内容を拡充したイベントを順次展開した。

また、平成 18 年 7 月に策定した「万博公園将来ビジョン」の「生き生きとした人間社会の構築」に掲げた少子高齢化・健康増進・地域社会との連携に向けた取組みでは、子どもたちが自然環境の中で参加体験できるキッズマーケット、インターナショナルキャンプ、昆虫・植物・星座観察会など多様な体験学習イベントを実施した。

さらに、高齢化社会のニーズへの対応として、公園で活動する NPO と協働して、万博公園の森林保全のための間伐等の樹木管理、花壇管理などに高齢者が参加・体験学習できる多くの活動を実施した。

- 自然文化園・日本庭園の上半期の入園者数は、天候不順、夏季における猛暑が主要な原因となり、対前年度比では▲25,354 人（2.7%）の減となった。

一方、下半期の入園者数は、安定した天候に恵まれたほか積極的なイベント実施や広報強化などが功を奏し、3 月 10 日時点での対前年度比では 43,279 人（+3.0%）の増にまで回復した。

しかし、3 月 11 日の東日本大震災により、イベントの中止や外出の自粛影響が主な原因となり、年間入園者数は前年度比では▲17,575 人（1.0%）の減となった。

他方、予約制の運動施設の利用件数は天候不順や猛暑の影響は少なく、また、平成 20 年度からの利用申込み方法の改善等が功を奏し、万博記念競技場、スポーツ広場、総合スポーツ広場などは、対前年度比では 2,232 件（16.0%）の増となった。

区 分	平成 22 年度 (4 月～3 月) ①	平成 21 年度 (4 月～3 月) ②	差(①-②)	増減率 (①/②)
入園者数	1,667,557 人	1,685,132 人	▲17,575 人	99.0%
利用件数	16,214 件	13,982 件	2,232 件	116.0%

- 年度計画に対する進捗率は、次のとおりである。

区 分	平成 22 年度 (4 月～3 月) ①	年度計画（平成 16 年度～平成 18 年度 の平均) ②	差(①-②)	達成率 (①/②)
入園者数	1,667,557 人	1,403,000 人 [1,298,519 人]	264,557 人 [369,038 人]	118.9% [128.4%]
利用件数	16,214 件	11,480 件 [10,885 件]	4,734 件 [5,329 件]	141.2% [149.0%]

[]内は前中期期間の目標値（平成 14 年度実績）及びそれに対する差・達成率

② 環境保全への積極的な貢献

イ 自立した森再生への取り組み

■ 生物多様性の豊かな森づくり

- 『万博記念公園における「自立した森づくり」の計画』に基づき、大学・研究機関・NPO法人等と連携を図りながら、生物多様性に富んだ森づくりの実践を、順応的管理を基本姿勢としながら進めた。
- これまで蓄積してきた「自立した森づくり」の成果や課題を世界に向けて発信するため、名古屋で開催される生物多様性条約COP10の併催行事である、「生物多様性交流フェア」の場における発表内容について、自立した森再生研究委員会の指導・助言を得た。
(10月23日～29日の7日間、当該フェアの専用ブースで情報発信を行った)
- 今後の10年間、生物多様性に重点を置いた取り組みを進めるべく、「生物多様性行動計画」の策定について同委員会の提言を得た。

(23年度の第1回委員会の中で計画案を提示することとなった。)

<p>《第9回自立した森再生研究委員会 (8月20日開催)》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 間伐候補地、生物多様性交流フェアでの発信内容について意見交換 ・ 5委員出席
<p>《第10回自立した森再生研究委員会 (3月14日開催)》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生物多様性行動計画(10年計画)の策定について意見交換 ・ 5委員出席

◇ 自立した森再生研究委員会委員 (50音順)

氏名	所属	専攻
澤木 昌典	大阪大学大学院工学研究科教授	環境・エネルギー工学
菅井 啓之	京都ノートルダム女子大学教授	自然教育・環境教育
須川 恒	龍谷大学講師	鳥類生態学
夏原 由博	名古屋大学大学院環境学研究科教授	環境生態学(動物)
森本 幸裕	京都大学大学院地球環境学堂教授《委員長》	環境生態学(植物)
山本 聡	兵庫県立大学自然・環境科学研究所准教授	緑地計画学

- 「自然文化園自立した森づくり調査」研究を京都大学と共同で行ったが、今年度は、「間伐区」と「ギャップ区」をそれぞれ1箇所新設した。
 - ◇ 間伐区：「園路沿いの林縁植生の多様化」、「花木の日照確保」をそれぞれのテーマとした間伐区を設定
 - ◇ ギャップ区・間伐区開設の箇所数(自然文化園、密生林内)

年度	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	計
間伐区	1	2	3	—	1	1	1	2	1	2	1	15
ギャップ区	4	3	1	1	1	1	—	—	1	—	1	13

※「ギャップ」とは、森林において台風などにより倒木が発生して生じた空間をいい、これを人工的に造るものである。

■生物生息環境の保全・管理

- 当公園に生息する希少生物の保護増殖について、昨年度に引き続き、関係行政機関、研究会等との意見交換や専門的見地からの支援要請を行うなど、適切な管理を行った。
- オオタカの生息（営巣）環境保全

◇「万博記念公園オオタカ生息環境保全委員会」の開催

<p>《第2回万博記念公園オオタカ生息環境保全委員会（8月20日開催）》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今期の繁殖結果の報告、来期に向けての課題について意見交換 ・京都大学大学院教授ほか4委員（全委員）出席
<p>《第3回万博記念公園オオタカ生息環境保全委員会（3月14日開催）》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今期（H23年度）の繁殖可能性と立入禁止区域設定について意見交換 ・京都大学大学院教授ほか3委員出席

・万博記念公園オオタカ生息環境保全委員会委員（50音順）

氏名	所属
稲波 誠	吹田野鳥の会幹事
須川 恒	龍谷大学講師
高島 耕一郎	(社)大阪自然環境保全協会理事、吹田自然観察会事務局長
平 軍二	日本野鳥の会大阪支部長
森本 幸裕	京都大学大学院地球環境学学教授 《委員長》

◇立入禁止区域の設定（4月1日）・解除（7月30日）

・「種の保存法」第34条及び「万博記念公園施設利用規程」第5条に基づき、水鳥の池とその周辺約3.4haを立入禁止区域に設定し、侵入防止のためのロープ柵を設置・解除

◇モニタリング調査の実施

・「万博記念公園オオタカ生息環境保全委員会」関係者の協力を得て、基本的に毎日、生息状況についてモニタリング調査を実施

◇平成19年度から4年連続して繁殖に成功し、平成22年度も1羽が繁殖した。

- モリアオガエルの生息状況調査

◇モリアオガエルの産卵状況のモニタリング調査を実施した。

- セミの抜け殻調査

◇園内全域を対象にセミの抜け殻調査を実施した結果、生息数の順序は次のとおりであり、改めて本園の自然度の高さ（自然再生の進展）が証明された。

①アブラ（72%）、②ニイニイ（15%）、③クマ（12%）、④ツツク（1%）

- 現在、取り組んでいる「森づくり」や「動植物の調査」の状況等を、季刊誌『森発見』等で次のとおり情報発信した。

◇季刊誌『森発見』掲載一覧

掲載内容	掲載号（発行日）
水辺の生きもの観察 （万博記念公園の観察記録から）	No.18(6月15日)
チョウの生息状況 （生物多様性豊かな森を目指して）	
森の声 （万博記念公園の観察記録から）	No.19(9月15日)
トンボの生息状況 （生物多様性豊かな森を目指して）	

森の顔 （万博記念公園の観察記録から）	No.20(12月15日)
生物多様性交流フェア （生物多様性豊かな森を目指して）	
草萌え （万博記念公園の観察記録から）	No.21(03月15日)
モリアオガエル （生物多様性豊かな森を目指して）	

- 自立した森再生事業の一層の拡充を図るため、次のとおり大学等の研究機関・NPO・ボランティア等と協働して、生物調査を実施した。

生物生息環境調査結果（平成22年度調査）

調査名 (調査機関)	調査内容	調査結果等
多様な生物相復元のためのエコアップ手法の確立 (大阪府立大学)	森林性の動物の増加とは逆に、減少傾向に歯どめのかからない草原性の動物の生息環境を創出し、園内の生物多様性の一層の向上を図るため、その方策を検討する。	わずかながら草原性の環境を保っている「生産の森・観察の森」と、本園の生物多様性のコアゾーンである「水鳥の池」を結ぶライン上において、過去に造成したギャップやギンドロ林の伐開による草地環境を創出する有効性を確認した。
園内の野生生物生息調査 (社)大阪自然環境保全協会	ギャップ区・間伐区を含む野生生物調査(トンボ・チョウなど昆虫、両生類、爬虫類他)	調査回数：31回 (例)森林性のチョウである「サトキマダラヒカゲ」、「クロヒカゲ」を確認
特定外来生物等生息状況調査 (社)大阪自然環境保全協会	生態系を乱す特定外来生物等の生息調査	調査回数：12回 ウシガエル・アメリカザリガニ・ミシシッピアカミミガメ、アゾラ、ジャンボタニシ等の確認と一部駆除
野鳥の生息調査(吹田野鳥の会)	自然の森再生に向け、渡り鳥や留鳥等の個体数・種数等のデータの蓄積及び解析を継続調査	《春の渡り鳥調査》 調査日：4月15日～5月5日の毎日 観察種数：51種(51種) トピック：ダイゼン、チュウシャクシギを初確認 《万博公園探鳥会》 調査回数：12回 観察種数：59種(56種) ()は昨年度種数 ※野鳥の種数については、全体としては大きな増減は認められないが、種の内容でみると、草原性の野鳥が減少している反面、森林性の野鳥が増加している傾向が続いており、森の再生が進んでいる指標となっている。(現在、草原性の野鳥の生息空間確保について検討中)

- シンポジウムの開催
 - ◇本園における自立した森づくりの成果と課題を事例に、都市における生物多様性をテーマとしたシンポジウムを開催した。(11月20日)
 - 『都市における“生物多様性”の向上を考える
-万博公園におけるオオタカ・セミの生息状況を事例に-』
- 国際会議での情報発信
 - ◇国際会議「都市における生物多様性とデザイン (URBI02010)」で本園の「森づくりの成果と課題」、「オオタカの繁殖と生息環境保全の現状と課題」の2本を発表(5月22日)
- 講演
 - ◇地球環境関西フォーラムの「環境教育・啓発部会」で、万博記念公園の自然再生の取り組みを説明(1月19日)

ロ 環境問題への対応

【太陽光発電】

- 機構と新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の共同研究事業として設置した太陽光発電設備の発電量は次のとおりであった。

年 度	年間発電量(KWh)	CO2 削減量(t-CO2)
平成 22 年度	231, 818	87. 6
平成 21 年度	221, 613	83. 8
平成 20 年度	223, 502	84. 4
平成 19 年度	230, 548	87. 1
平成 18 年度	214, 751	81. 2

- 和歌山県の「ため池法面を活用した太陽光発電導入ビジョン策定調査」に、当公園の太陽光発電施設の建設時の資料、運用実績、メンテナンス等について資料を提供した。
(10月6日和歌山県職員等12名現地視察・質疑応答等)

【剪定枝等の再利用】

- 園内の緑地管理に伴い発生した間伐材・剪定枝・根株などは、昭和50年代から、園内でチップ化・堆肥化して再利用している。
平成22年度においては、園内でチップ化してマルチング(根の保護・雑草防除などのために地表に撒くこと)材として、また、チップを更に熟成させた堆肥を花壇等の肥料として再利用したほか、一部余剰分については、堆肥、竹炭として園内で販売し、環境保全の普及啓発に努めた。

【木質バイオマス有効活用及び足湯】

- 公園内間伐材等を利用した木質バイオマスの有効活用について、NPOからの提案事業として、小規模で簡素なバイオマス有効活用システム(スターリングエンジン使用)の構築に取り組むとともに、その仕組みと運転状況について見学会を実施した(5月~3月計13日間、参加者計188名)。
- エコフェスタ in Expo Park(11月6~7日)において、「樹木(バイオマス)発電」による「森のエコバス」の運行を通して、来園者に対し、資源循環に係る普及啓発を実施した。
- 木質バイオマスの有効活用実験で運転しているボイラーから出る温湯を利用して、足湯の運営を行った。

足湯の月別利用者数

年度 月別	21年度		22年度		園内地産地消に関する行事 の開催状況
	利用数	稼働日	利用数	稼働日	
4月	3,979	25	4,353	26	
5月	3,902	27	5,157	27	菖蒲湯 5/4・5、カミール湯 5/22・23
6月		-	1,121	10	ラベンダー湯 6/5・6
7月	-	-		-	
8月	-	-	-	-	
9月	-	-	-	-	水検査結果(9/16) 問題なし
10月	4,682	26	3,994	27	シト 10/10・11、ローズマリ 10/23・24
11月	4,177	26	4,652	26	はっさく 11/13・14、柚子 11/27・28
12月	-	-	-	-	
1月		-	-	-	
2月	2,822	24	2,191	14	ヒノキ湯 2/19・20
3月	3,370	26	3,555	26	月桂樹湯 3/5・6、竹炭湯 3/20・21
計	22,932	154	25,023	156	利用者数：対前年比9%増

【データ公表】

- これまでの環境保全の取組み等について、広く情報発信するため、季刊誌『森発見』を活用し、連載方式「万博から発信する地域環境力」として掲載した。

季刊誌『森発見』掲載一覧表

掲載内容	掲載号(発行日)
第1回 竹林と資源循環型の公園づくり	No.18 (6月15日)
第2回 バイオマスを活用した森の新しいエネルギー	No.19 (9月15日)
第3回 市民が守る生物の多様性	No.20 (12月15日)
第4回 市民の手で花を育てる	No.21 (12月15日)

③ 民間団体との協働による地域社会への積極的な貢献

【NPO法人等との協働による資源循環型公園づくり】

- 参加型イベント「万博エコラリー」の開催(5月4・5日)
 - ・「環境エキスポ 2010」において、園内で活動しているNPO法人と連携し、資源循環型社会の形成を目指した公園の環境保全への取組状況を紹介するエコラリーを実施した。

プログラム名	団体名	参加延人数
万博公園内の自然エネルギーパネル展示と解説	NPO 法人大阪府民 循環型社会推進 機構	613
循環社会推進読本による啓発		51
地下水系保全と節水のための廃てんぷら油の回収	NPO 法人インクルージョ ンプログラムラボラトリ	7
万博バイオディーゼル燃料システムの展示と解説		541

万博R洗剤の解説		541
エコノートによる啓発		174
リユース食器の啓発		1,076
万博R洗剤による啓発（賞品）		382
万博公園の水で育む水生生物とのふれあい体験	NPO 法人インクルージョンプログラムラボラトリ	893
万博公園の田畑で育つ野草の効能クイズ		786
万博公園の田畑で育つ野草茶の試飲体験	NPO 法人野と森の遊び文化協会	560
古農具の展示		813
竹炭による啓発		35
スティック竹トンボづくり体験	NPO 法人野と森の遊び文化協会	582
竹トンボゴルフ体験		436
万博公園の自然のぞき見体験	(社) 大阪自然環境保全協会	697
万博公園ネイチャークイズ		626
循環型モデルパーク（エコパーク）づくりの パネル展示等	NPO 法人スマイルパーク	1,143
チューリップの球根掘り上げ体験	NPO 法人ベスト	481
万博エコ堆肥づくり体験	NPO 法人ベスト	474
樹木（バイオマス）による足湯（しょうぶ湯）体験	NPO 法人里山倶楽部	745
樹木（バイオマス）発電による焼印コースターづくり	NPO 法人里山倶楽部	288
丸太切り体験		288
計		12,232

- NPO 団体等との協働による“資源循環型公園づくり”の実施
- ・下表①の9業務を委託するとともに、「中間支援業務」（受託団体のボランティア等に対し指導・助言を行いながら相互の連携を図り、機構との調整を行う業務）を「NPO 法人大阪府民循環型社会推進機構」に委託した。
 - ・また、各 NPO 法人等のボランティアスタッフを万博公園で育成するため、機構と NPO 法人等が協働して下表②のとおり、各種養成講座を開催した。これらの、NPO 法人等と協働して取り組んでいる「資源循環型公園づくり」を広く市民に体験してもらうため、各種イベントを開催した。

① NPO 法人等に委託した公園管理等業務

	業務名	団体名
1	花園創出管理	NPO 法人ベスト
2	花壇管理	NPO 法人ベスト
3	園内野生生物生息調査	(社) 大阪自然環境保全協会
4	農業体験支援	NPO 法人野と森の遊び文化協会
5	循環市民の森づくり	NPO 法人里山倶楽部
6	竹林資源活用	NPO 法人野と森の遊び文化協会
7	美化推進	NPO 法人インクルージョンプログラムラボラトリ
8	日本庭園・自然文化園水質維持	NPO 法人インクルージョンプログラムラボラトリ
9	広報活動支援	NPO 法人スマイルパーク
10	中間支援業務	(特活) 大阪府民循環型社会推進機構

② 環境ボランティア養成講座

講座名	開催回数(回)	参加人数(人)
万博循環型社会推進大学講座	16	102
初・中級自然循環型伝承農法士養成講座	14	99
初・中級竹仙人養成講座	14	170
初級温室効果ガス削減士養成講座	4	17
万博記念公園生きもの見分け方講座	7	100
万博記念公園自然環境セミナー	6	80
マイスター養成講座(園芸)	2	28
万博水質調査隊養成講座	2	1
万博炭焼き士養成講座	2	18
森を活かす講座「生命あふれる森をつくろう！」	5	45
合計	72	660

(注) 1日だけの参加が可能な講座は、記載を省略

- エコフェスタ in Expo Park において、本公園で循環型モデルパークづくりに取り組んでいる NPO 法人等全団体が参加して、下表の地産地消イベント等を開催した。(11月6～7日)

プログラム名	団体名	参加延人数(人)
竹とんぼゴルフ	NPO 法人野と森の遊び文化協会	483
竹炭による啓発		11
野草茶の試飲		412
ボランティア・トークショー		20
自然のぞき見体験	(社) 大阪自然環境保全協会	388
生物多様性ネイチャークイズ		369
大阪の生物ミニ図鑑による啓発		20

廃てんぷら油の回収	NPO 法人インクルージョン プログラムラボラトリ	17
万博バイオディーゼル燃料システムの解説等		4,202
万博R洗剤の解説等		468
リユース食器による啓発		996
エコノートによる啓発		78
障がい者のある仲間と一緒に歌おうエコソング		62
水生生物とのふれあい体験		447
園内地産地消活動のパネル展示		245
チューリップの植え付け体験	NPO 法人ベスト	154
万博エコ堆肥づくり		133
樹木（バイオマス）発電によるエコバス体験	NPO 法人里山倶楽部	61
樹木（バイオマス）ボイラーによる足湯体験		283
森の足湯オリジナルタオルによる啓発		11
万博公園内の自然エネルギーのパネル展示と解説	NPO 法人大阪府民 循環型社会推進機構	132
万博エコアップラリー		1,125
計		10,117

- NPO 法人インクルージョンプログラムラボラトリの「廃てんぷら油の回収プロジェクト」が、大阪府地球温暖化防止活動推進センター主催の「なにわのSTOP!!温暖化大作戦」において優秀賞を獲得した。(11月6日)

【健康増進の場の提供】

- 大阪大学医学部に協力して、生活習慣病型がん患者に対する補完医療の一環として、森林療法を実践〈被験者：10名〉(11月24日)
- 平成22年度の下半期から、当機構、大阪大学大学教育実践センター運動健康支援部門、NPO 日本ノルディックフィットネス協会、産経新聞の4者が連携して、万博公園の緑豊かな自然環境の中でノルディックウォークを普及啓発するための体験講座を新たに導入した。フィンランド発祥のノルディックウォークは、通常のウォークより約1.5倍のエネルギーを消費させ、メタボリックシンドロームや生活習慣病の予防、肢体のリハビリに貢献するスポーツとして注目されている。

[開催状況]

開催月	実施回数	参加人数
10月	9回	288人
11月	6回	258人
12月	2回	77人
1月	5回	275人
2月	3回	28人
3月	4回	159人
計	29回	1,085人

【自然観察学習館】

- 地域社会に貢献するため、自然観察学習館の活動として、自然観察会や森の工作教室等の体験学習を65回開催(雨天中止を除く)した。

体験学習の開催回数

年 度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
実 績	67 回	66 回	65 回

平成 22 年度における体験学習の開催状況

(単位：人)

	行事名	実施日	参加数	備考
1	初めての植物写真講座	4/ 4(日)	10	
2	季節の植物観察ガイド	4/ 9(金)	17	
3	木や竹、木の実を使った工作	4/10(土)	20	
4	春の昆虫観察会	4/11(日)	25	
5	初めての植物写真講座	4/18(日)	9	
6	木や竹、木の実を使った工作	4/24(土)	7	
7	新緑の観察会	4/25(日)	24	
8	万博お茶摘み大会	5/ 2(日)	528	
9	木や竹、木の実を使った工作	5/ 8(土)	30	
10	チョウの観察会	5/ 9(日)	13	
11	季節の植物観察ガイド	5/14(金)	19	
12	野鳥観察会一鳥のさえずりー	5/15(土)	42	
13	木や竹、木の実を使った工作	5/22(土)	24	
14	樹に咲く花の観察会	5/23(日)	-	雨天中止
15	季節の植物観察ガイド	6/11(金)	16	
16	木や竹、木の実を使った工作	6/12(土)	26	
17	トンボの観察会	6/13(日)	-	雨天中止
18	きのこの観察会	6/20(日)	35	
19	部分月食観望会	6/26(土)	23	
20	木や竹、木の実を使った工作	6/26(土)	4	
21	水辺の植物の観察会	6/27(日)	13	
22	木や竹、木の実を使った工作	7/10(土)	10	
23	水辺の昆虫の観察会	7/11(日)	-	雨天中止
24	野鳥観察会一夏鳥をみようー	7/17(土)	18	
25	木や竹、木の実を使った工作	7/17(土)	21	
26	セミの羽化の観察会	7/27(火)	36	
27	木や竹、木の実を使った工作	8/ 1(日)	30	
28	木や竹、木の実を使った工作	8/ 7(土)	34	
29	夏の昆虫観察会	8/ 8(日)	6	
30	木や竹、木の実を使った工作	8/14(土)	44	
31	バッタの観察会	9/12(日)	22	
32	季節の植物観察ガイド	9/17(金)	12	
33	夏の星座観望会	9/18(土)	43	
34	木や竹、木の実を使った工作	9/18(土)	27	
35	木や竹、木の実を使った工作	9/25(土)	8	
36	秋の野草の観察会	9/26(日)	18	
37	季節の植物観察ガイド	10/ 8(金)	20	

38	木や竹、木の実を使った工作	10/ 9(土)	3	
39	秋の昆虫観察会	10/10(日)	15	
40	どんぐりクッキーを作ろう	10/10(日)	42	
41	どんぐりクッキーを作ろう	10/16(土)	47	
42	木や竹、木の実を使った工作	10/23(土)	25	
43	木の実、種子の観察会	10/24(日)	6	
44	万博ネイチャーラリー	11/ 3(水・祝)	2,410	(N) シニア自然 大学校と共催
45	初めての草木染め	11/ 7(日)	43	
46	季節の植物観察ガイド	11/12(金)	17	
47	木や竹、木の実を使った工作	11/13(土)	14	
48	野鳥観察会－鳥の渡り－	11/20(日)	10	
49	木や竹、木の実を使った工作	11/27(土)	15	
50	紅葉の観察会	11/28(日)	16	
51	クリスマスリース作り	12/ 4(土)	27	
52	季節の植物観察ガイド	12/10(金)	16	
53	ミニ門松づくり	12/18(土)	39	
54	野鳥観察会－冬鳥をみよう－	12/18(土)	14	
55	針葉樹の観察会	12/19(日)	10	
56	越冬昆虫の観察会	1/ 9(日)	45	
57	季節の植物観察ガイド	1/14(金)	15	
58	野鳥観察会－冬鳥をみよう－	1/15(土)	22	
59	樹皮・樹形の観察会 －万博公園の巨木を探そう－	1/23(日)	14	
60	野鳥観察会－冬鳥をみよう－	1/29(土)	20	
61	冬の野鳥観察講座	2/ 6(日)	46	
62	季節の植物観察ガイド	2/11(金・祝)	-	雨天中止
63	野鳥観察会－冬鳥をみよう－	2/19(土)	36	
64	冬の星座観望会	2/26(土)	27	
65	冬芽の観察会	2/27(日)	9	
66	季節の植物観察ガイド	3/11(金)	15	
67	野鳥観察会－冬鳥をみよう－	3/19(土)	42	
68	木や竹、木の実を使った工作	3/26(土)	21	
69	春の野草の観察会	3/27(日)	17	
	計	69日	4,332	

- 自然観察学習館では、当公園内に生息する動植物の季節展示のほか、当公園の自然をテーマとした地域の写真家の作品の展示を行った。

	展示名	期間	備考
1	野鳥展 (繁殖期の園内の野鳥の紹介)	4/15～5/24	季節展示(本館)
2	植物からのメッセージ (写真展)	4/15～5/25	特別展示(新館)
3	水と生物展	5/27～7/5	季節展示(本館)
4	森再生への取り組み	5/27～10/5	特別展示(新館)
5	夏の自然展	7/8～8/23	季節展示(本館)

6	初秋の自然展	8/26～9/20	季節展示(本館)
7	秋の自然展	9/23～11/29	季節展示(本館)
8	写真で見る野鳥たち	10/7～11/10	特別展示(新館)
9	森再生への取り組み	11/11～3/31	特別展示(新館)
10	冬の自然展	12/ 2～ 2/ 7	季節展示(本館)
11	春の自然展	2/10～ 4/11	季節展示(本館)

【学校等への教育の場の提供】

- 自然観察学習館や学習プログラムのPRを行うなど、本公園の利用促進を働きかけた結果、「生活科・総合的な学習の時間」として学習館を使用した学校数等は、次表のとおりとなった。なお、受入れに当たっては、学習館の運営に協力するボランティア団体「ソラードの会」の協力を得て実施した。

年度別一覧表

年 度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
学校数 (校)	37	30	33
延べ人数 (人)	3, 527	2, 947	3, 381

- 吹田市の小中学校初任者教職員等の環境教育現地研修会「自然観察・環境学習フィールドワーク」を吹田市教育センターと共同で実施した。当該研修では、機構職員がボランティア団体やNPOと協力して「自立した森づくり」や「緑の循環システム」の仕組み状況の説明及び現地案内、学習館で木工作実習及び自然観察学習プログラムを利用したフィールドワーク等の指導を行った。(8月18日、参加教職員75名)
- 高槻市の小中学校教員の生活科研修会「遠足が変わる(自然文化園でこんなこともできるのか!)」を高槻市教育センターと共同で実施した。当該研修では、学習館ボランティア団体の協力のもと、学習館で木工作実習及び自然観察学習プログラムを利用したフィールドワーク等の指導を行った。(8月26日、参加教員16名)

【その他の地域社会への積極的な貢献】

- 地域社会へ積極的に貢献するため、NPO法人等と協働して、次の活動を行った。

活動内容	団体名	実施日等	参加延人数
環境保全体験支援(筍間伐体験等) ・吹田市障害者交流センターの利用者 ・社会福祉法人さつき福祉会の利用者	NPO 法人野と森の遊び文化協会 NPO 法人インクルージョンプログラムラボラトリ NPO 法人大阪府民循環型社会推進機構	37回	877
就労体験支援(炭の袋詰め等) ・吹田障害者交流センターの利用者 ・社会福祉法人さつき福祉会の利用者	NPO 法人野と森の遊び文化協会 NPO 法人インクルージョンプログラムラボラトリ NPO 法人大阪府民循環型社会推進機構	165回	1,414
林業・木材製造業労働災害防止協会との連携によるエコツアーの実施	NPO 法人インクルージョンプログラムラボラトリ NPO 法人大阪府民循環型社会推進機構	5回	156

大阪地域職業訓練センターとの連携による未就労者を対象とした就労体験インターン支援を実施	NPO 法人野と森の遊び文化協会 NPO 法人インクルージョンプログラムラボラトリ NPO 法人大阪府民循環型社会推進機構	58 回	84
大阪環境パートナーシップ「かけはし」が実施する「H22年度 第1回 エコセミナー」の運営協力の実施	NPO 法人インクルージョンプログラムラボラトリ NPO 法人大阪府民循環型社会推進機構	3 回	19
大阪市子ども青少年局、(NPO 法人)育て上げネットとの連携によるニートを対象にした 就労体験インターン支援を実施	NPO 法人インクルージョンプログラムラボラトリ NPO 法人大阪府民循環型社会推進機構	5 回	11
吹田市立片山中学校理科部との連携によるセミの脱け殻調査	社団法人大阪自然環境保全協会	2 回	17
日本植物病理学会「土壌伝染病談話会」への参加者に対するエコツアーの実施	NPO 法人野と森の遊び文化協会 NPO 法人大阪府民循環型社会推進機構	1 回	43
吹田市立青山台小学校との連携により、「キッズカメラマン」の実施 (カメラを用いて公園の魅力探し)	NPO 法人スマイルパーク	1 回	38
茨木市農業環境部農林課との連携により、同課職員を対象に畑・水田・果樹園の管理について研修を実施	NPO 法人野と森の遊び文化協会	1 回	6
(財)大阪教育振興公社との連携により、学童保育施設における児童を対象に体験学習を実施	NPO 法人インクルージョンプログラムラボラトリ	2 回	85
山田白寿会(老人会)を対象に作業体験(花壇管理)会を実施	NPO 法人ベスト	1 回	22
計		281 回	2,772 人

【地域の防災等に関する施策への貢献】

- 「大阪府地域防災計画」に基づく「北部広域防災拠点」に係る備蓄倉庫用地の貸付や、大規模災害発生時における「後方支援活動拠点」としての用地使用承認を行っているほか、近隣自治体の広域避難場所や大阪府ドクターヘリの離発着場等としても公園を提供し、地方自治体の防災行政等に積極的に協力している。

広域防災拠点・避難場所の提供一覧

地方公共団体等	指定内容	使用場所	承認時期
大阪府	陸上輸送基地・後方支援活動拠点	スポーツ広場、南第1・2駐車場	平成7年12月
	北部広域防災拠点の臨時ヘリポート及び活動の場	東駐車場、万博記念競技場	平成14年8月
	国民保護避難施設(武力攻撃事態等における近隣市の避難場所)	公園全体	平成19年3月

	ドクターヘリの緊急離着陸場	東の広場、 運動場、 南第2駐車場	平成20年1月
吹田市	広域避難場所	公園全体	昭和57年1月
吹田市消防本部	ヘリコプター臨時離着陸場	東の広場	昭和55年
茨木市	広域避難地	公園全体	昭和55年10月
大阪府下消防長会	消防応援隊集結場所	駐車場	平成8年

○ 地方公共団体等の防災活動等に次のとおり公園施設を提供した。

実施日	実施者	内 容	提供施設
8月17日 9月2日	吹田市消防本部	吹田市地域防災総合訓練(ヘリコプター訓練、8月17日は事前訓練)	自然文化園東の広場
以下、東日本大震災関連			
3月11日	緊急消防援助隊(大阪府隊)	大阪府隊(104隊403名)の結集・出動に協力	東駐車場
3月13日		大阪府隊の交替要員が結集・出動に協力(マイクロバス4台、トラック1台)	南第2駐車場
3月17日	政府	政府緊急災害対策本部に対し広域的な二次避難における被災者の受け入れが可能な施設として万博記念ビルの一部について財務省を通じ情報提供	—
3月19日	大阪府警察	管区機動隊の出動に協力(バス9台、マイクロバス4台、約200名)	南第2駐車場
	大阪府	大阪府北部広域防災拠点に大阪府及び北摂各市町村の救援物資を集めて岩手県に搬送(トラック5台)	大阪府北部備蓄倉庫前

○ ドクターヘリや患者緊急輸送ヘリの着陸地として次のとおり公園施設を提供した。

なお、着陸時には職員や警備員が付近の来園者に場所移動を要請し、連絡調整は、吹田市消防本部を窓口として実施されている。

実施日	出発地点	患者送り先	内 容	提供施設
6月9日	—	—	大阪大学附属病院のドクターヘリヘリポート使用不能のため発着場所提供	自然文化園東の広場
8月18日	兵庫県豊岡市	千里救急救命センター	ドクターヘリ	
9月3日	香川県	国立循環器病センター	患者緊急輸送ヘリ	
9月14日	兵庫県豊岡市	千里救急救命センター	ドクターヘリ	

10月27日	高知県	国立循環器病センター	患者緊急輸送ヘリ	
11月1日				
11月4日	愛知県	大阪大学附属病院	ドクターヘリ	
11月16日	岡山県			
2月2日	徳島県	国立循環器病センター	患者緊急輸送ヘリ	
2月16日				
3月4日	大阪府熊取町			

- 公園内の5箇所の井戸は、大規模な地震災害等が発生し、水道の供給が停止した場合に、飲用水以外の生活用水を確保することを目的として、近隣の被災者へ井戸水の提供について協力する、「災害時協力井戸」として大阪府に登録している。
- 公園内に設けられている「大阪府北部広域防災拠点」・「後方支援活動拠点」の災害発生時の運用について、大阪府危機管理室と合同で、21年度に策定した活動マニュアルの検証を兼ねた大阪府職員と機構職員・警備員との合同訓練（実地研修）を3月23日（水）に実施する予定であったが、東日本大震災の発生により中止となった。

(2) 基金に関する事項

① 効果的な助成金の交付

○ 助成対象の重点化

基金事業においては、日本万国博覧会の成功を記念するにふさわしい文化的活動又は国際相互理解の促進に資する活動に対し助成金を交付することとしている。

平成 22 年度においても、当機構の第 2 期中期計画に基づいて、国内外の助成対象事業については、環境・公園に関連する事業へ重点化することとし、このうち公園に重点化する事業として「万博公園賑わい創出支援事業」(後述)を実施していくこととした。

また、万博の成功を記念するにふさわしい事業であれば、伝統文化、地域文化などに関する諸活動に対しても引き続き支援を行うこととし、助成金の限度額をこれまでの 50 万円から 100 万円までに拡充した。

○ 助成成果の社会への発信等の積極的評価

「市民公開講座の開催」等助成事業の社会への発信については、従前から選考に当たっての評価項目の一つとしており、この評価項目を平成 23 年度助成事業の募集要項に明記し、事業者にこのような発信を行うことが評価のプラスになることを認知させた。

○ 平成 23 年度一般助成事業

- ・ 受付期間 9 月 1 日～30 日(当日消印有効)
- ・ 申請件数 143 件うち「環境に関連する事業」 61 件
- ・ 申請金額 472,190 千円うち「環境に関連する事業」 237,654 千円

一般助成事業の状況

(単位：件、千円)

年度	申請		交付決定		採択割合 (申請全体)		重点事項の 採択割合 (交付決定/申請)	
	件数(a)	金額(b)	件数(c)	金額(d)	件数 (c/a)	金額 (d/b)	件数 (c/a)	金額 (d/b)
H16	198 (35)	1,024,572 (129,415)	108 (28)	282,525 (68,000)	54.5%	27.6%	80.0%	52.5%
H17	189 (29)	1,062,793 (119,664)	73 (15)	245,500 (36,198)	38.6%	23.1%	51.7%	30.2%
H18	252 (70)	1,050,746 (214,000)	92 (28)	205,000 (57,000)	36.5%	19.5%	40.0%	26.6%
H19	192 (68)	900,576 (267,635)	75 (50)	172,000 (102,500)	39.1%	19.1%	73.5%	38.3%
H20	161 (93)	740,373 (348,248)	77 (55)	173,500 (118,700)	47.8%	23.4%	59.1%	34.1%
H21	127 (72)	569,838 (290,845)	61 (41)	143,700 (97,000)	48.0%	25.2%	56.9%	33.4%
H22	156 (74)	775,619 (427,134)	55 (33)	141,700 (93,300)	35.3%	18.3%	44.6%	21.8%
H23	143 (61)	472,190 (237,654)	49 (29)	124,100 (74,400)	34.3%	26.3%	47.5%	31.3%
合計	1,418 (502)	6,596,707 (2,034,595)	590 (279)	1,488,025 (647,098)	41.6%	22.6%	55.6%	31.8%

(注) 各事業年度の数値は当初交付決定時のもの

()の数字は内書きで、助成重点事項に該当する数値

○ 万博公園賑わい創出支援事業

イ 公園事業と基金事業との連携

平成 18 年度助成事業から、公園事業と基金事業との連携をより深め、相乗効果を増大させる取組みとして、「万博公園賑わい創出支援事業」を創設した。

さらに、平成 19 年度助成事業からは、助成限度額を 1 件あたり 5,000 千円(18 年度 3,000 千円)に引き上げ、助成予算を 50,000 千円(18 年度 15,000 千円)に拡充するとともに、国内各地において開催する万博当時の展示品の展示会等の事業を助成対象に加えるなど、事業メニューも充実させた。

平成 22 年度は、万博開催 40 周年を記念した展示会である「特別展 人類の英知を集めて」・

「企画展 太陽の塔黄金の顔展」や、2011年6月にアテネで開催される「2011年スペシャルオリンピックス夏季世界大会・アテネ」の国内選考を兼ねた「2010年第5回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・大阪」等に対して助成を行った。

ロ 平成22年度万博公園賑わい創出支援事業の追加募集

平成22年度万博公園賑わい創出支援事業(予算：5,000万円)については、審査の結果、採択金額が3,680万円となったことから、効果的な助成を行うため、残額1,320万円につき、追加募集を行った。

- ・受付期間 4月1日～30日
- ・助成対象期間 平成22年8月1日～平成23年3月31日

申請及び交付決定の件数・金額は次のとおり。

	申 請	交付決定
件 数	12 件	10 件
金 額	38,954 千円	13,200 千円

ハ 平成23年度万博公園賑わい創出支援事業

基金事業審査会からの意見を踏まえ、実地調査において助成事業者からいただいた意見等を参考にして、50万円から150万円の範囲内での定額助成を新たに創設し、これまでの方式(対象事業費の2/3以内かつ500万円以内)と申請者側で選択できることにした。また、新たに国内での旅費交通費を助成対象費目とした。

- ・受付期間 9月1日～9月30日(当日消印有効)
- ・申請件数 28件
- ・申請金額 84,744千円

申請実績については、当初募集ベースで、昨年度(件数12件 金額38,484千円)よりも大幅に増加した。この理由としては、上記のとおり制度の充実を図ったことや府内北部自治体関係課やNPO法人へのPR等が功を奏したものとする。

万博公園賑わい創出支援事業の状況 (単位：件、千円)

年 度	申 請		交 付 決 定		採 択 割 合 (申請全体)	
	件数(a)	金額(b)	件数(c)	金額(d)	件数(c/a)	金額(d/b)
H18	11	13,388	11	13,357	100.0%	99.8%
H19	16	54,751	15	50,197	93.8%	91.7%
H20	13	50,886	13	48,506	100.0%	95.3%
H21	27	88,467	19	43,691	70.4%	49.4%
H22	24	77,438	21	50,000	87.5%	64.6%
H23	28	84,744	18	50,000	64.3%	59.0%
合 計	119	369,674	97	255,751	81.5%	69.2%

○ 補欠事業

平成17年度事業から創設した「補欠事業制度」により、平成22年度は、6件(助成額12,800千円)を追加採択し、交付決定後の辞退等により生じる財源の有効活用を図り、効果的な助成金の交付に努めた。また、平成23年度の補欠事業11件18,600千円を選定した。

平成 22 年度助成金 補欠繰上げ交付決定状況 (単位：件、千円)

事業区分	件数	金額
国際相互理解の促進に資する活動	6	12,800
国際文化交流、国際親善に寄与する活動	2	6,000
学術、教育、社会福祉、医療及び保健衛生に関する国際的な活動	4	6,800
自然の保護その他人間環境の保全に関する国際的な活動	0	0
博覧会の成功を記念するにふさわしい文化的活動	0	0
日本の伝統文化の伝承及び振興活動	0	0
芸術及び地域文化に関する活動	0	0
合計	6	12,800

平成 23 年度助成金 補欠事業選定状況 (単位：件、千円)

事業区分	件数	金額
国際相互理解の促進に資する活動	11	18,600
国際文化交流、国際親善に寄与する活動	2	7,000
学術、教育、社会福祉、医療及び保健衛生に関する国際的な活動	9	11,600
自然の保護その他人間環境の保全に関する国際的な活動	0	0
博覧会の成功を記念するにふさわしい文化的活動	0	0
日本の伝統文化の伝承及び振興活動	0	0
芸術及び地域文化に関する活動	0	0
合計	11	18,600

② 助成対象事業についての事後評価の実施

○ 事後評価の概要

個々の助成事業が、的確かつ効果的に実施されたか、また、どのような事業成果、波及効果があったかを確認・検証し、今後の事業改善に反映させていくため、平成 19 年度助成事業から、基金事業審査会の委員の意見も踏まえ事後評価を実施している。

平成 22 年度は、平成 21 年度の繰越分及び当年度助成事業の事後評価を実施した。

(実施要綱)

- ① 評価者：(独)日本万国博覧会記念機構
- ② 対象：すべての助成事業
- ③ 評価時期：個々の事業について、完了実績報告書(助成事業の実施内容及び成果に関する報告書)の提出後に行う。
- ④ 評価項目：事業形態によって異なる評価シートを作成
(事業の総括、事業の実施状況、参加者等の意見の把握、支出における経費区分、広報計画など)
- ⑤ 評価方法：完了実績報告書及び機構自らが実地調査した結果に基づいて、上記評価項目について、5 段階による採点を行い、これを集計したものを総合評価とした。

○ 平成 21 年度助成事業の評価結果(評価対象事業：74 件)

平成 21 年度助成事業の評価結果を以下のとおり、とりまとめた(当機構ホームページで、平成 23 年 4 月 12 日に公表済み)。

評価結果	件数
期待水準を超えて極めて良好な事業	1件
期待水準を超えて良好な事業	9件
期待水準を十分満たした事業	55件
期待水準に比べてやや順調でないと考えられる事業	9件
期待水準に比べて順調でないと考えられる事業	0件

・評価結果の分析

期待水準に達している事業が 65 件ののぼり、助成事業は概ね適切に実施されているものと分析している。

【評価が得られた内容】

- ・青少年を主な対象にした市民公開講座の実施、若手研究者の国際会議への参加支援など次世代を担う人材の育成に積極的に取り組んでいる。
- ・申請時の計画と比べ、「万博表示」の媒体の種類、作成数が増加している。

【評価が得られなかった内容】

- ・申請時の計画と比べ、事業実施時の方が、参加者、参加国数が減少している。
 - ・申請時の計画と比べ、「万博表示」の印刷媒体等が少なくなっている。
- ※ 当初計画よりも参加者が減少した事業については、完了実績報告書にその理由を記載することを事業者に求めている。
- また、印刷物等に万博表示を行うことを計画していたにもかかわらず、万博表示を行わなかった場合は、印刷に係る経費を助成対象外として減額した上で、助成金を交付している。

○ 平成 23 年度募集要項への評価結果の反映

平成 23 年度助成事業の募集要項には、事後評価についての項目を設け、引き続き実施する旨を申請者にわかりやすく記載するとともに、事後評価の情報を掲載している当機構のホームページの URL を併せて記載し、申請者の参考となるようにした。

また、引き続き同要項には、これまでに実施した事後評価結果を踏まえ、ホームページによる紹介、市民公開講座の実施などにより助成事業の成果を発信している場合は評価項目の一つとすることを記載した。

○ 平成 23 年度助成事業審査への評価結果の活用

平成 23 年度助成事業の審査に当たり、これまで評価結果がなされた助成事業者からの申請については、その結果を審査資料に記載し、基金事業審査会・専門部会の審査に活用した（活用件数：19 件）。

○ 審査会での意見聴取

事後評価の実施状況及び評価結果の活用方策について説明を行うとともに、評価についての意見を聴取した。

【審査会での説明事項】

- ・平成 20 年度助成事業の評価結果
- ・平成 21 年度及び平成 22 年度の助成事業（いずれも平成 23 年 1 月 20 日現在）の評価状況
- ・評価結果の活用方策（23 年度助成事業への反映など）

【意見等に基づく改善点】

事業者の事業の質の向上の一助となるよう、平成 23 年度助成事業から各事業者それぞれの評価結果を通知することとした。

○ 基金事業全体へのフィードバック

環境に係る事業については、評価の際の参考とするため、平成 22 年度助成事業者の完了実績報告書に事業実施により環境問題の解決にどのような成果が得られたかを具体的に記載させることにした。

また、「万博基金 REPORT」において、期待水準に達していた助成事業の中から選考して、評価の高い事業を掲載した。

さらに事後評価を補完するため、実地調査を実施しており、その詳細については、次の③に記載のとおり。

③ 助成金の交付にかかる選考手続き等における客観性及び透明性の確保

■ 基金事業審査会

○ 基金事業審査会の概要

基金事業審査会は、助成金交付事業の適正な運営及び助成対象事業の公正な選考を行うために設置している。助成分野にかかる事業をさらに専門的な見地から審査するため、審査会に専門部会を設置し、審査会は、専門部会における審査結果を踏まえ、総合調整を行った上で採択案をまとめ、機構に答申することとしている。(委員については、別紙1のとおり)。

また、助成重点事項、採択基準、助成金の交付に関する重要事項について意見を聴取することとしている。

○ 委員の選定方針

基金事業審査会の委員の選定については、審査会の運営方法をより明確化するため、国の「審議会等の運営に関する指針」を参考に制定した「基金事業審査会委員選定に関する指針」(平成 18年10月 1 日実施)において、委員の任期(2期4年まで)、女性委員の比率(30%以上)などを規定している。

○ 平成 22 年度万博公園賑わい創出支援事業追加募集の審査

イ 専門部会での審査

申請された事業について、専門的な見地から審査するため、国際相互理解・文化活動部会に審査を依頼した(平成 22 年 5 月 12 日)。審査結果は下記のとおりである。

【専門部会審査状況】

部会名	開催日時	申 請		採 択	
		件数	金額	件数	金額
国際相互理解・文化活動部会	5/31(月)16:00～	12 件	38,954 千円	10 件	13,200 千円

ロ 第 19 回基金事業審査会の開催

本案件の部会審査の結果を踏まえ、公正な選考を行うため、基金事業審査会を持回りにて開催し、委員の了承を得たため、平成 22 年 7 月 2 日に助成金の交付決定を行った。

○ 平成 23 年度助成金交付事業の審査

イ 専門部会での審査

申請された事業を専門的な見地から審査するため、一般助成事業の審査を基金事業審査会専

門部会に依頼した(平成 22 年 11 月 1 日)。

また、万博公園賑わい創出支援事業については、国際相互理解・文化活動部会に審査を依頼した(平成 22 年 11 月 1 日)。

【専門部会審査状況】

(金額：千円)

	開催日時	申請 件数	申請額	審査 件数	精査後 限度額	採択 件数	採択金額
環境第 1 部会	12/8(水) 14:00～	30	107,583	22	79,400	13	29,400
環境第 2 部会	12/13(月) 15:00～	31	130,071	23	80,100	16	45,000
国際相互理解 文化活動部会	12/20(月) 15:00～	82	234,536	58	174,700	20	49,700
(賑わい創出支 援事業)		28	84,744	25	78,800	18	50,000
合 計		171	556,934	128	413,000	67	174,100

ロ 第 20 回基金事業審査会(平成 23 年 2 月 14 日開催)

平成 23 年度助成事業の選考にかかる各専門部会からの提案を踏まえ、審査会において助成事業の選考に係る答申がなされた。また、基金事業全般について意見聴取を行ったほか、助成事業における事後評価の実施結果について報告した。

【議事要旨(平成 23 年 3 月 16 日 ホームページ掲載)】

(1)助成事業の選考

平成 23 年度日本万国博覧会記念基金事業採択案及び補欠事業の決定について

平成 23 年度日本万博公園賑わい創出支援事業採択案の決定について

①事務局説明(専門部会審査までの経緯)

○中期計画に基づいて、引き続き環境・公園に関係する事業に重点的に助成金を配分した。

○選考にあたっては、各部会委員のそれぞれの評価をもとに、専門部会で協議を行い採択すべき案件を選考した。

②各専門部会からの審査結果報告

○環境第 1 部会

環境というテーマにふさわしい事業であるかなどの観点から協議を行い、採択案件を選考した。

(選考結果)

採択 13 件 2,940 万円 補欠 4 件 340 万円

○環境第 2 部会

環境というテーマにふさわしい事業であるかなどの観点から協議を行い、採択案件を選考した。

(選考結果)

採択 16 件 4,500 万円 補欠 採択なし

○国際相互理解・文化活動部会

【一般助成事業】

文化から医学、自然科学といった幅広い分野における事業の中から、万博の成功を記念するにふさわしいものを協議の上、採択案件として選考した。

(選考結果)

採択 20 件 4,970 万円 補欠 7 件 1,520 万円

【万博公園賑わい創出支援事業】

万博公園の賑わい創出などの趣旨を踏まえ、協議を行い、採択案件を選考した。
 (選考結果)
 採択 18件 5,000万円

③助成事業の採択結果
 専門部会からの報告後、協議の上、次のとおり採択した。
 (一般助成事業)
 採択 49件 1億2,410万円 補欠 11件 1,860万円
 (万博公園賑わい創出支援事業)
 採択 18件 5,000万円

④質疑応答等
 ○申請方法について
 申請書の記入漏れなど、申請書類作成の際の不備ができる限り少なくなるような工夫を検討されたい。

(2)意見聴取事項
 今後の万博基金助成事業について

①主な意見
 ○環境に関係する事業についても文化的な活動を行う事業者からの申請が増えるよう、PRを工夫されたい。
 ○万博基金を国民に広くPRするため、引き続き積極的な広報に努められたい。

(3)報告事項
 助成事業における事後評価の実施結果について
 平成19年度～平成22年度助成事業の状況について

平成23年度助成金交付決定状況

(単位：件、千円)

事業区分	一般助成事業				賑わい創出支援事業		合計	
	環境関係		環境以外		件数	金額	件数	金額
	件数	金額	件数	金額				
国際相互理解の促進に資する活動	26	71,400	18	48,100	14	42,300	58	161,800
国際文化交流、国際親善に寄与する活動	6	20,400	6	20,200	7	23,300	19	63,900
学術、教育、社会福祉、医療及び保健衛生に関する国際的な活動	18	45,600	12	27,900	4	13,400	34	86,900
自然の保護その他人間環境の保全に関する国際的な活動	2	5,400	0	0	3	5,600	5	11,000
文化的活動	3	3,000	2	1,600	4	7,700	9	12,300
日本の伝統文化の伝承及び振興活動	0	0	1	1,000	1	800	2	1,800
芸術及び地域文化に関する活動	3	3,000	1	600	3	6,900	7	10,500
合計	29	74,400	20	49,700	18	50,000	67	174,100

なお、交付決定した個々の事業については、別紙2のとおりである。

■ 申請者の利便性の向上

申請者の利便性の向上を図るため、以下の事項を行った。

○ 平成 23 年度助成事業の申請手続きの公開等

①官報で募集告知を行った（平成 22 年 7 月 1 日）。

②募集要項、申請書及び採択基準を機構ホームページに掲載した（平成 22 年 7 月 1 日）。

なお、募集要項に記載されている「資金使途予算表」の記入例に注意すべきポイントなどを新たに記載した。

③報道機関への資料提供（平成 22 年 7 月 1 日）

吹田記者クラブ、豊中記者クラブ、北摂記者クラブ、大阪府政記者クラブへ提供した。

④関係団体への周知依頼（平成 22 年 7 月 13 日）

募集情報の更なる周知を図るため、前年度の 525 団体に新たに、エネルギー・資源学会、国立科学博物館など環境関係団体等を加え、合計 709 団体に対して、募集案内及び基金事業の周知依頼を行った。

上記依頼先のうち、学会や研究機関等の 374 団体に対して、機構ホームページとのリンク設定を依頼した（平成 22 年 7 月 13 日）。このうち、地方公共団体(40)、大学(30)、学会(2)、その他の団体(5)の合計 77 団体のホームページに募集情報が掲載されていることを確認した（平成 22 年 9 月 30 日）。

⑤全国紙への広告掲載（平成 22 年 9 月 3 日）

募集情報を全国に周知するため、日本経済新聞社に募集広告を掲載した。

⑥基金事業ニュース「万博基金 REPORT」の作成・送付等（平成 22 年 9 月・平成 23 年 3 月）

基金事業のこれまでの助成実績、平成 23 年度助成事業の募集情報・交付決定状況、特色のある助成事業等を掲載した広報誌を作成し、関係省庁・地方自治体、大学、学会、NPO 法人等に送付するとともに、万博公園近隣の駅構内（12 箇所）及び公園内に配置した（9 月：800 部作成、3 月：2,000 部作成）。

○ 助成金の交付状況等の公開

申請に際して事業者の参考となるよう、助成金の交付決定状況、交付先団体名、交付金額等を機構ホームページに公開した。また、基金事業審査会及び専門部会の委員名簿及び審査会の議事要旨も同じく公開した。

○ 機構ホームページの充実

募集情報をホームページから入手している申請者が多いことから（全入手媒体の約 81%）、申請者にとって、より使いやすいものにするため、申請書類、報告書、完了実績報告書など交付決定後に必要となる書類のダウンロード及び基金事業に係る情報が検索しやすいように基金事業のホームページの改善を行った。

○ 平成 23 年度募集に係る説明会の開催

①平成 23 年度助成事業申請予定者を対象に、募集要項の内容や申請のポイントなどを説明するため、前年度に引き続き募集説明会を開催した。

【開催状況】

イ 日 時：平成 22 年 9 月 7 日（火） 午後 2 時～3 時

参加人数：9 団体 11 名

ロ 日 時：平成 22 年 9 月 8 日（水） 午後 2 時～3 時

参加人数：10 団体 10 名

②環境関係団体等への説明会

上記①とは別に、環境問題に取り組む NPO 及び大阪府内の市町村を対象にした環境セミナーにおいて、募集について説明を行い、あわせて助成事業の PR を行った（平成 22 年 9 月 16 日）。

○ 国内事業の実地調査

「環境・公園」に関する事業を中心に、事業形態、事業実施地域等を考慮の上、助成事業の成果等の確認や助成事業者の要望や意見を的確に把握するため、24件の事業について実地調査を行った。

この調査では、助成金の使途の妥当性、助成事業の成果、看板・ポスターや印刷物等に万博基金からの助成であることの明示状況等の確認を行った。あわせて、基金事業の今後の改善の参考とするため、意見や要望を聴取した。

また、助成事業者に対しても、当該事業が万博基金の助成を受けて実施されていることを社会に発信していただくよう働きかけ、理解を求めた。

なお調査の実施状況等については、下表のとおりである。

[調査の実施状況（抜粋）]

No	事業名	調査実施日	参加者数等	事業の実施状況
1	KYOTO 版画 2010 日本・ポーランド 国際版画展	6月8日	出品者 124名 (国内92名 国外32名)	<ul style="list-style-type: none"> 助成金については、当初計画通り執行されている。 ポーランドの版画家による講演会を開催するなど、当初計画どおり芸術・文化交流の促進に寄与しているものと思われた。 当初計画に比べ、看板とチケットに万博表示なし
2	北欧の音楽 ピクニック (賑わい)	6月20日	参加者 (観客) 3,000名	<ul style="list-style-type: none"> 助成金については、北欧から来日を予定していたアーティストの減少等はあったものの、適切に執行されている。 北欧では白夜の時期(6月)に夏祭りを行うなど太陽に対し特別な思いがあり、今回、太陽を象徴している太陽の塔の下で演奏できたことは、非常に意義深いものとなった。 万博表示については、当初計画通り実施されていた。
3	再生可能エネルギー2010国際会議 (環境)	7月1日	参加者数 1,359名	<ul style="list-style-type: none"> 助成金については、会場費の節減に努めつつ、適切に執行されている。 市民フォーラム開催、研究分野ごとのワークショップを計画どおりに開催している。 多くの来場が見込まれる国際展示会を同時開催することにより、再生可能エネルギーに関する多くの課題解決に向けた相乗効果が期待できる。 万博表示については、当初計画通り実施されていた。

○ 国外事業の実地調査

平成18年度から平成20年度にかけて国外事業者が実施した事業のうち、財産を取得した事業(施設の整備等16件)について、財産及びそれらに附された万博表示の現況を把握するため、在外公館を通じて資料調査を行った。

調査の結果、調査対象となった全ての取得財産は有効に活用されており、万博表示も全ての取得財産で適切に行われていることを確認した(平成22年10月13日)。

平成 18 年度：8 件 平成 19 年度：3 件 平成 20 年度：5 件

〔調査結果（抜粋）〕

事業名・事業形態	国名	万博表示	利用状況
日本・パラグアイ学院基金 【施設の建設又は整備】	パラグアイ	有	校舎と多目的ホールは 173 名の学院全生徒と約 50 名の教師が利用。授業のある約 200 日（年間）は毎日利用
日本研究・日本語教育用機材の購入 【日本語教育用機材購入】	ベトナム	有	同大学の教員、学生が利用
ファーマン大学による環境保全及び日本文化紹介プロジェクトの一環としての伝統的日本建築物の組立再建事業 【施設の建設、整備】	アメリカ	有	建物内で大学の授業が行われているほか、一般市民に週 3 回公開

■ 万博表示の実施及び基金事業の社会への普及・浸透

○ 万博表示

平成 23 年度募集に当たっても、従来どおり万博表示の徹底を図るとともに、当基金の意義を広く認知してもらうため、万博表示例に「この助成金は、日本万国博覧会の収益を基にしています。」の文言を新たに付け加えた。

【表示例】



助成 独立行政法人日本万国博覧会記念機構

Supported by the Commemorative Organization for the Japan World Exposition('70).

この助成金は、日本万国博覧会の収益を基にしています。

また、平成 22 年度助成事業から、万博表示の徹底を図るため、日本万国博覧会記念基金交付規程を改正し、正当な理由なく広報物や成果物等に万博表示を行わなかった助成事業者については、助成金を減額することとした（適用事例はなし）。

○ 基金事業リーフレットの更新及び配布依頼

基金事業を広く PR するため、事業の概要等を紹介するリーフレットの内容を更新して 3,000 部作成した。市民公開講座、公演・展示や国際会議などを実施する事業者に対して送付し、会場での配布を依頼した。

また、名古屋市で開催された生物多様性条約第 10 回締約国際会議（COP10）の関連イベント「生物多様性交流フェア」の出展ブースにて、同リーフレット（200 部）を配付した（平成 22 年 10 月 23 日～29 日）。

○ 基金事業の社会への浸透

基金事業の社会への周知を図るため、当機構ホームページの「基金事業ニュース」に、5 件の助成事業を掲載した。

○ 助成事業者への支援

当機構のホームページに、一般市民が参加する「市民公開講座」や一般市民の入場が可能な「公演・展示会」の情報の定期的な掲載（11 件掲載）や、基金事業広報誌（万博基金 REPORT）に、特色のある助成事業の内容等を掲載することにより、事業者の広報活動を支援した。

○ 助成事業者からの感謝状の贈呈等

助成に対し感謝の意を表する2事業者から感謝状の贈呈を受けた。そのうち1事業者から、活動内容を紹介する番組の最後に、当該事業が万博基金の助成を受けている旨テロップで放映された。

④ 民間の知見の活用

○ 基金事業審査会での意見聴取

平成22年度については、第19回審査会でいただいた意見をもとに、助成内容の充実を図った。

〔新たな助成内容〕

①一般助成事業

文化的活動について、助成額を引き上げた。

助成額の範囲：50万円 ⇒ 50万円～100万円

②賑わい創出支援事業

50万円から100万円の範囲内での定額助成を新たに創設し、これまでの方式（対象事業費の2/3以内かつ500万円以内）と申請者側で選択できることにした。

その他新たに、国内での旅費交通費を助成対象費目とした。

また、第20回審査会でいただいた意見については、前記(2)③のとおりである。

○ 平成23年度助成事業者へのアンケート調査の実施

基金事業の改善のため申請者のニーズを把握することを目的に、国外事業者を除く、平成23年度助成事業に申請した団体(156団体)に対して、交付決定通知と併せて万博基金事業についてのアンケート用紙を同封し、調査を実施した(平成23年3月4日送付)。

主な調査結果は下表のとおり。

質問項目	回答	割合	
申込手続き(募集要項の分かりやすさ)について	簡単	2	4.4%
	難しい	3	6.7%
	適当である	40	88.9%
費目への助成について	事業全体に助成してほしい	27	60.0%
	費目を増やしてほしい	6	13.3%
	このままでよい	12	26.7%
事業形態について	減らしたほうがよい	1	2.2%
	現在のままでよい	40	88.9%
	増やすほうがよい	4	8.9%
万博基金のPRについて	【主な回答】 ・学際的・領域を超える研究分野 ・招聘、海外への派遣事業 等		
万博基金のPRについて	・各学会、他助成機関とのHPリンク ・学会の研究紀要や定期大会のプログラムへの広告 ・他団体のウェブサイトへのバナー広告 ・タウン誌やミニコミ誌、フリーペーパーの活用 ・「万博公園だより」を幅広く鉄道駅構内に置く。 ・テレビCM(高コストが問題) ・ポスター、チラシ、リーフレットの配布 ・NPO、大学、学会等関係団体等へのPR ・今のままで十分 等		

万博基金への要望・意見 等	【主な回答】 ・今後も助成を続け万博公園や地域の活性化に尽力してほしい。 ・国際交流につながる長期的な事業の助成 ・審査結果をもう少し早く通知してほしい。 等
---------------	---

(3) 公園事業への繰入れの拡大

平成 22 年度は、公園の施設整備（お祭り広場舗装工事）のため、基金の運用益から 50,000 千円の公園事業への繰入れを行った。

また、平成 23 年度予算でも、公園事業への繰入れとして 50,000 千円計上している。

(4) 基金の運用及び管理における客観性及び透明性の確保

① 基金の管理・運用

より効果的な運営に努め、責任体制を明確化するため、次の事項に取り組んできた。

○ 内部組織体制の整備

日本万国博覧会記念基金の管理及び運用を適正に行うとともに、責任体制を明確にするため、平成22年4月8日に開催した役員及び幹部職員による「債券運用会議」において、平成22年度における債券運用方針を決定した。

【債券運用会議の構成】

役員(理事長・理事・監事)、総務・事業部長、総務部次長、総務・経理課長

※事務局：基金課

○ 運用方針の主な項目

- ・予算計上額を上回る運用収入を、確保するよう努める。
- ・キャッシュ(銀行預金を含む)保有割合は可能な限り小さくすることとし、平成 21 年度の水準を維持し又は下回るように努める。

キャッシュ平残数値

年 度	キャッシュ平均残高	キャッシュ保有割合
平成 20 年度	61,882 千円	0.33%
平成 21 年度	89,981 千円	0.47%
平成 22 年度	91,215 千円	0.48%

○ 毎月開催の「債券運用会議」において、前月分までの運用資産明細表により、債券の償還、再運用、利金収入の状況や助成金の支払い状況等を報告した。

○ 当機構では、独立行政法人通則法第 47 条の規定等に基づき、国債、地方債、政府保証債、特別の法律により法人の発行する債券及び A 格以上の社債のみを取得することとしている。

万一、保有する債券の格付けが A 格未満に格下げになった場合は、22 年度債券運用方針に、速やかに債券運用会議に諮った上でその対応を決定する旨を定めるなど、より安全な債券管理に努めた。

② 基金の管理及び運用における規程の遵守等

- 基金の管理・運用については、独立行政法人通則法及び独立行政法人日本万国博覧会記念機構法に基づき、日本万国博覧会記念基金管理規程、日本万国博覧会記念基金及び余裕金運用規程を定めており、これに基づき適正な管理・運用に努めた。
- また、透明性の確保の観点から、平成21年度中の基金の運用状況や運用益の使途について、平成22年8月24日にホームページで公表した。

[平成21年度]

(運用状況)		(運用益の使途)	
・運用収入額	325百万円	・基金事業費	224百万円
・運用資金額	18,986百万円	・その他費用	50百万円
・平均利回り	1.71%	・積立金	51百万円

3. 予算、収支計画及び資金計画

(1) 公園に関する事項

- 平成 22 年度は、日本万国博覧会開催 40 周年記念に係る各種イベントを実施したほか、公園情報の発信強化のため「万博公園だより」を各家庭等に直接配布し、また、平成 23 年度が岡本太郎生誕 100 年に当たることから、「太陽の塔」に関する多数の取材申請に応じたことなど、広報活動の強化を図った結果、入園者数は年度計画（約 1,403 千人）を上回る約 1,668 千人となった。

また、スポーツ施設等の利用件数も 16,214 件と年度計画を上回った（詳細については、2. (1) ①「利用者に対するサービスの向上」に記載）。

公園入場料等収入については、有料入場者が約 1,245 千人であったことや、運営委託収入が見込みどおりの結果とならなかったことにより、平成 22 年度の「公園入場料等収入」は 1,468 百万円と、年度計画(1,509 百万円)に対し 41 百万円(▲2.7%)下回った。

平成 22 年度公園入場料等収入 (単位：百万円)

実績 ①	計画 ②	差(①-②)	達成率
1,468	1,509	▲41	97.3%

- また、平成 22 年度「公園入場料等収入」の実績は、中期計画の目標数値である 1,391 百万円（平成 17 年度から 21 年度の実績 6,957 百万円の年度平均）を 77 百万円(5.5%)上回った。

平成 22 年度公園入場料等収入と中期計画との比較 (単位：百万円)

実績 ①	中期計画②	平均(②/5)	差(①-③)	達成率
1,468	6,957	③1,391	77	105.5%

- 平成22年度の計画に対する実績(第1号勘定と第2号勘定の合計)については、予算ベースでは収入100%、支出87%、収支ベースでは、収益106%、費用105%、当期総利益180%、資金計画ベースでは、資金収入・支出とも102%となっている。(詳細は別紙3)

- 実績の経年比較(同)については、次のとおりである。(詳細は別紙4)

・ 予算ベース

(単位：百万円)

	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
収入	4,366	3,706	3,554	3,993	4,197
支出	4,020	3,331	3,388	3,597	3,542

・ 収支ベース

(単位：百万円)

	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
収益	3,588	3,552	3,297	3,610	3,786
費用	3,335	3,401	3,201	3,365	3,645
当期総利益	307	150	96	245	142

・ 資金計画ベース

(単位：百万円)

	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
資金収入 ・ 支出	8,298	8,350	7,802	8,176	10,491

- 貸借対照表及び利益の処分に関する書類の経年比較(同)については、次のとおりである。(詳細は別紙 5)

・貸借対照表 (単位：百万円)

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
資 産	149,071	148,812	148,078	149,108	149,563
負 債	7,620	7,211	6,786	7,571	7,885
純資産	141,451	141,602	141,291	141,537	141,679

・利益の処分に関する書類 (単位：百万円)

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
利益処分額	307	150	96	245	142

- 第2期中期計画において、基金事業については、環境・公園に関連する事業等への助成に重点化するとともに、万博記念公園の施設整備や低廉な公園入場料維持のため、公園事業への繰入れを増やすこととしており、平成22年度においては、前年度に引き続き50百万円の繰入れを行っている(平成20年度は15百万円)。

(2) 基金に関する事項

平成22年度において運用利益金の未使用分があれば、積立金として計上する予定である。

4. 短期借入金の限度額

短期借入の実績はない。

5. 重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、その計画

重要な財産の譲渡、処分の実績はない。

6. 剰余金の使途

第1号勘定、第2号勘定ともに剰余金の使用の実績はない。

7. その他財務省令で定める業務運営に関する事項

(1) 人事に関する計画

① 職員の資質向上のための研修計画

- 第2期中期目標期間における「中期研修計画」に基づき、過去に実施した研修の受講報告書等を参考として「平成22年度研修計画」を策定し、業務に関連した専門知識やノウハウの習得・向上を目的とした研修等の効率的・効果的な実施を図るとともに、職員の希望を採り入れた研修を実施し、業務状況に配慮して複数の時間帯から選択して受講できるようにするなど、受講の促進に努めた。
- 研修実施後には、研修目的の達成度や研修成果の業務への活用状況について受講者にヒアリングやアンケートを実施し、研修成果を実際の業務に反映させ、業務の改善を図ることができるよう、また、今後の研修内容をより効果的なものとするよう努めた。
- 職員のスキルアップによる人材育成を図るため、業務に関連した資格の取得を推進しており、平成22年度は、「公園管理運営士」、「学芸員」、「特別管理産業廃棄物管理責任者」、「ファイナンシャル・プランニング技能士2級」等の資格を職員が取得した。
- 平成22年度の研修等の実績は次表のとおりである。

平成22年度職員研修計画の実施状況

研修項目	目的等	対象	参加人員
法規 (独立行政法人制度)	独立行政法人制度等に関する基礎知識を習得させる	国及び大阪府からの転入職員	6名
内部統制	内部統制に関する理解を深め、健全で倫理観の高い組織づくりを図る ・内部統制に関する講習会 ・コンプライアンスとセキュリティに関する研修 ・セクハラ・パワハラ研修	全職員	のべ104名
経営管理 (メンタルヘルス研修)	人事労務管理の一環として、職場のメンタルヘルスに関する知識を深める	担当職員	2名
ビジネススキル (職種別研修)	職種別に必要な知識やノウハウを習得する ・クレーム対応研修 ・資金運用セミナー ・安全運転管理者研修 ・行政管理・評価セミナー ・都市緑化のための土壌・農薬・病害虫対策研修会 ・工事監理指針講習会 ・公共建築工事標準仕様書講習会 等	全職員 又は担当職員	のべ41名
人権	人権問題についての理解を深め、人権尊重の意識の高揚を図る	担当職員	2名
自己啓発支援 (資格取得)	業務に必要な又は業務に活用できる資格の取得を促進する ・特別管理産業廃棄物管理責任者 ・自衛消防業務講習	担当職員	3名
計			のべ158名

② 人員計画

- 社会経済情勢が大きく変化する中、より効率的・効果的な運営が求められる一方で、利用者に対するサービスの向上や環境保全、地域社会への積極的な貢献など、多様化・高度化する国民のニーズへの迅速・的確な対応が求められている。

このような状況を踏まえ、「第2期中期目標期間における業務執行計画」に基づき、業務改善、民間知見等の活用、職員の資質向上に努めるとともに、常勤職員 48 名体制で、独立行政法人としての健全な経営はもとより、新たな課題への対応やより高い目標の達成に向けて、事業をこれまで以上に着実に推進した。

③ 内部統制

- 法人の長が組織にとって重要な情報等を適時的確に把握するとともに、法人のミッション等を役職員に周知徹底できるよう、毎月 2 回開催している理事会を活用し、理事長に対し年度計画の進捗状況等について定期報告を行うとともに、理事長から直接各課に指示が伝えられる体制を確保している。

- 内部統制の一環として、法人のミッションや中期目標の達成を阻害する要因（リスク）の適切な管理を行う体制を確立するため、機構として取り組むべき重要なリスクを取りまとめた「リスク対応計画」を策定することとし、理事長を委員長とする「コンプライアンス・リスク管理委員会」（平成 23 年 3 月 31 日開催）における審議を経て策定した。

その際、中期目標・計画が未達成となるようなリスク項目についても、その把握・分析・対応等を「リスク対応計画」に盛り込んだ。

今後は、リスクの管理状況について各課から定期報告を受け、PDCA サイクルにより当該管理体制及び「リスク対応計画」を継続的に見直し、内部統制の強化に資することとした。

- また、内部統制システムの整備・強化を引き続き推進するため、平成 22 年度には下記のとおり関連規程等の整備を行った。

【平成 22 年度に制定した関連規程等】

- ① リスク管理規程（6 月 21 日制定）
- ② 内部通報制度運用規程（6 月 21 日制定）
- ③ コンプライアンス・リスク管理委員会設置要領（6 月 21 日制定）
- ④ 情報化統括責任者等設置要領（6 月 21 日制定）
- ⑤ 法人文書管理規程（9 月 15 日改正）及び同規程実施細則（9 月 15 日制定）
- ⑥ 情報セキュリティ規程（2 月 23 日制定）
- ⑦ コンプライアンス・マニュアル、情報セキュリティ・マニュアル（3 月 3 日制定）
- ⑧ リスク対応計画（3 月 31 日策定）

- さらに、内部統制に対する意識の向上や、新たに制定したマニュアル等の内容の周知徹底等を目的として、役職員を対象とした内部統制に関する研修を下記のとおり実施した。

- ・内部統制に関する講習会（8 月 5 日実施 17 名出席（※係長以上対象））
- ・セクハラ・パワハラ研修（2 月 18 日実施 41 名出席）
- ・コンプライアンスとセキュリティに関する研修（3 月 15・16 日実施 46 名出席）

（2）施設及び設備に関する計画

- 公園利用者の利便性の向上、安全の確保に加えて、省資源・省エネルギー及び管理コストの軽減等のために、総額920百万円の整備工事を実施した。

主な工事の概要は次表のとおりである。

目的	工事名	概要
安全確保	万国橋耐震補強工事	平成21年度に引き続き施工してきた万国橋の耐震補強工事が完成した。これにより、中国自動車道・大阪中央環状線など国土交通の要衝にかかる3本の橋の耐震補強は、すべて完了した
	万博記念ビル耐震補強工事	大阪万博当時に建設された記念ビルを、現在の耐震基準に適合させる補強工事を行った
	スポーツ広場防球ネット改修工事	周辺通行者等の安全確保の観点から、従来の高さ3mのネットフェンスに加え、高さ10mの防球ネットを設置した
バリアフリー・ヒートアイランド抑制	万博記念競技場メインスタンド便所他改修工事(第2期)	老朽化した万博記念競技場のトイレを洋式便座増、ベビーベッド設置等、バリアフリーのトイレに改修した
	お祭り広場舗装工事	老朽化により亀裂や凸凹が生じ、車椅子運行の障害や歩行者のつまづきの原因となっていた舗装を、環境にやさしい透水性の舗装に切り替えた
	園路(東大路)舗装工事	
省資源・省エネルギー	自然文化園受変電設備改修工事(公園西側部分)	省エネルギー、設備維持・取替費用圧縮の観点から平成17年度以降計画的に自然文化園の受変電設備の削減を行っている。今年度は、自然文化園西部地区を施工し3基の高圧キュービクルを2基に統合した
	万博記念競技場及び園内照明設備改修工事	万博記念競技場の屋内照明及びテニスコート等の外灯をLED電球に切り替えた
万博遺産の保存	夢の池防水層改修工事	70年万博当時の風景を今に残す夢の池が漏水のため水位が保てなくなったため、40年ぶりに防水パネルを張り替えた
	夢の池噴水塔塗装改修工事	上記工事に合わせ、夢の池に残っているイサム・ノグチの噴水を大阪万博当時の色に再現する塗装工事を行った
	日本庭園茶室・汎庵屋根葺替工事	大阪万博開催に合わせ政府出展施設の日本庭園に京都商工会議所から寄贈された人間国宝中村外二の設計施工になる茶室汎庵の屋根の桧皮葺部分を葺き替えた

(3) 公園内の安全管理

【万博記念公園安全管理連絡会議】

- 万博公園安全管理連絡会の構成団体に、「事故災害発生時対応マニュアル」及び「施設安全点検マニュアル」の従業員への周知徹底を要請するとともに、平成20年に制定した安全に関するマニュアルの再検討に資するため、改善意見等の提出を要請した(10月7日)。
- 安全管理連絡会議を次の内容で開催した。(3月18日、国立民族学博物館等の園内施設及び機構業務受託者 16団体21名 機構2名参加)
 - ① 「事故災害発生時対応マニュアル」及び「事例別対応シート」の改正について
 - ② 事例報告について
 - ③ 東日本大震災に関連して、大阪府北部広域防災拠点・後方支援活動拠点について説明。

【講習会・訓練等の実施】

- 機構職員が、公園の設備保守受託業者従業員に電気事故の防止等について保安教育を実施した。(7月29日、20名参加)
- EXPO'70パビリオンにおいて、火災発生時の避難・消火の自主訓練を万博機構・パビリオンスタッフ・警備員・ゲート収納員と共同で実施した(9月22日 参加者総数24名)。
- 迎賓館受託者が吹田北消防署立会いの下に消防訓練(避難誘導、消火器・消火栓の使い方)を実施し、機構職員、警備員も参加した(10月6日、迎賓館23名、機構職員2名、機構警備員1名)。

【企画提案の審査項目】

- エキスポランド跡地内のプール再開に係る企画提案公募を行う際に、建築基準法、大阪府遊泳場条例等に基づく関係行政機関の検査・許可に適合する運営方法を条件とした。
採択された受託者により前記の検査・許可を得たのち、7月1日にプールを開設し、9月5日までの67日間、監視要員の配置など適切な安全確保に努めた。

【イベントの安全確認】

- 公園内で実施する自主イベント、持ち込みイベントの安全管理については、平成20年度に策定した「イベント安全管理マニュアル」に基づき、以下のとおり安全確認を行った。

[安全確認を要するイベントの規模：原則1日1万人・5日連続でかつ1日5千人]

実施日	イベント名/形態	主な安全確認事項	対応状況
4/24.25	ロハスフェスタ /持込イベント	○前日及び当日の確認 ・テントの強風対策の確認 ・出店ブースの設営・運営状況 ・来場者の誘導警備体制 ・出店車両の乗り入れ確認	・異常気象(ゲリラ豪雨、強風、落雷等)時のリアルタイムな情報提供(中央口から)と対応措置の現場での再確認 ・保健所の許可書を掲示していない臨時飲食店への掲出指導
5/2	FM802 FUNKY MARKET /持込イベント	○当日の確認 ・テントの強風対策の確認 ・出店ブースの設営・運営状況	・飲食店舗が厨房で使う水を井水の取水口から誤って引き込んでいたため、水道取水口に切り替えさせた
5/29～ 6/9	蛍のタベ /自主イベント	○前日及び当日の確認 ・進入規制柵の転倒確認 ・多客時における車椅子、ベビーカー利用者の安全確認 ・園路の照度、障害物有無の確認	・多客時における車椅子、ベビーカー利用者への安全確保について会場内スタッフに周知徹底をした ・園路照度が不足している箇所照明調整を指示した
7/25 7/31	FM802 MEET THE WORLD DEAT 2010/ 持込イベント 情熱大陸 SPE CIAL LIVE /持込イベント	○開催前及び当日の確認 ・熱中症対策の確認 ・落雷、ゲリラ豪雨等の異常気象への対応 ・救急車出動依頼時の園内走行の安全管理の確認	・熱中症患者の程度と回復度を観察し、異変があれば早急に救急車の要請を行う旨の指示をした ・落雷等の異常気象への対応は、既提出の警備計画を遵守する旨の注意喚起をした

8/12	ファミリーオートキャンプ&インターナショナルキャンプ/自主イベント	○当日の確認 ・台風4号の接近に伴う安全対策の確認 ・気象予報士から、キャンプ実施日(8/11・12)の天気予測を聴取し、現地スタッフに情報提供を行った	・台風は大阪に上陸しなかったものの、キャンパーに対してテント等の飛散防止には十分注意するようにスタッフに指示した
3/19～ 3/21	チャリティーキッズ/自主イベント	○前日及び当日の確認 [前日] ・お祭り広場、下の広場のテント設置状況の確認 [当日] ・テント、看板等の設置状況 ・火元近くのプロパンガス設置確認 ・食材の衛生管理の注意喚起を行った	・お祭り広場は、テント飛散用杭が打てないため、柱に出来るだけ多くのウェートを置くように指示した ・当日は強風のため、看板が転倒しないように重しを置くように指示した ・数店がガスコンロの下側にプロパンガスを置いていたため、場所の移動を指示した

【受託者と連携した定期的安全確認等】

- 機構職員及び施設管理受託者が4半期ごとに所管施設の安全確認を行い、提出された報告書に基づき安全確保に必要な修繕工事等を迅速に実施した。

【取組状況の公表】

- 取組状況については随時ホームページに掲載したほか、掲載内容に改正を加えた。

【落雷対応策】

- 平成22年3月に雷情報システムを自然文化園中央口に導入した。雷雲が公園から半径1.0Km圏内に接近した際は、来園者に対してリアルタイムに避難告知の園内放送を行っているほか、同時に運動施設などへも情報提供を行っている。イベントやスポーツ大会主催者の雷情報への関心は高く、雷情報システムは事業の決行・中止の適切な判断に大きな役割を果たしている。

【事故災害への対応】

- 夏の酷暑に対応する熱中症対策として、万博公園だより、ホームページ、園内各ゲートの掲示板で注意喚起を行っているほか、自然文化園においては適宜園内放送を行った。また、運動施設では個々の利用者に対して注意喚起を行った。
- 5月21日、万博テニスガーデンで76歳の会員がプレー中意識を失い、受託者が救急車の出動を要請した。救急車到着までの5分間に患者の心肺停止が確認されたため、受託者スタッフがAEDを使用し、心肺蘇生を行った。この結果、病院に搬送された患者の意識は回復し、リハビリの後に退院したが、この処置について、受託者従業員が9月14日吹田市消防本部から表彰された。

【東日本大震災(3月11日)への対応】

- 地震の(大阪府は震度3)発生後直ちに、機構職員及び施設管理受託者で公園内の被害状況を調査し、被害がない事を確認した(3月11日)。
- 臨時理事会を開催し、次の方針を決定した(3月14日)。
 - ①イベントについては、お祭りのようなものは取り止めるが、すべてを自粛するのではなく、チャリティーに変更するなど実施していく。

②自然文化園のゲートに義援金の募金箱を設置すると共に、太陽の塔ライトアップ及び黄金の顔の目玉は、被災地に哀悼の意を表すため消灯する。

- ・ 来園者からの募金総額 622,579円（3月15日から4月11日）
- ・ 太陽の塔ライトアップ及び黄金の顔の目玉消灯（3月14日から4月8日）
- チャリティーイベントへの協力
 - ・ 日本サッカー協会等「東北地方太平洋地震チャリティーマッチ」（3月27日）
- 地方公共団体の被災地救援活動に公園施設を提供した。

日本万国博覧会記念基金事業審査会委

任期：平成 21 年 12 月 15 日から平成 23 年 3 月 31 日

役職名	氏名	所 属
委員長	宮原 秀夫	独立行政法人情報通信研究機構理事長 財団法人地球環境センター理事長
委員	上田 みどり	広島経済大学教授
委員	田邊 隆一	外務省特命全権大使（関西担当）
委員	浜 矩子	同志社大学大学院ビジネス研究科教授
委員	堀井 良殷	財団法人大阪 21 世紀協会理事長
委員	矢内原 千鶴子	大阪薬科大学理事長

審査会専門部会 委員

任期：平成 21 年 12 月 15 日から平成 23 年 3 月 31 日

部会名	役職名	氏名	所 属
環境第 1 部会	部会長	谷口 研二	大阪大学大学院工学研究科教授 (先端科学イノベーションセンター長)
	委員	杉原 充志	羽衣国際大学産業社会学部キャリアデザイン学科教授
	委員	夏原 由博	名古屋大学大学院環境学研究科教授
	委員	花嶋 温子	大阪産業大学人間環境学部講師
	委員	弘本 由香里	大阪ガス株式会社エネルギー・文化研究所客員研究員
環境第 2 部会	部会長	山近 洋	株式会社住化技術情報センター顧問
	委員	荳阪 満里子	大阪大学大学院人間科学研究科教授
	委員	河内 厚郎	『関西文学』代表、夙川学院短期大学教授
	委員	中村 佳正	京都大学大学院情報学研究科教授
	委員	藤本 豊士	名古屋大学医学部・大学院医学研究科教授
国際相互理解・文化活動部会	部会長	木津川 計	雑誌『上方芸能』発行人、和歌山大学観光学部客員教授
	委員	勝岡 洋治	大阪医科大学泌尿器科教授
	委員	窪田 好男	京都府立大学公共政策学部准教授
	委員	佐藤 友美子	財団法人サントリー文化財団上席研究フェロー
	委員	高橋 憲明	大阪市立科学館館長

平成23年度交付決定事業一覧

【環境に関する事業】

NO	事業者名	事業名	交付決定額(円)
1	触媒学会	ファインケミカルズ合成触媒国際会議 2011	2,200,000
2	3R・低炭素社会検定実行委員会	持続可能な社会構築に向けた文化探求プロジェクト	1,000,000
3	財団法人国際文化教育交流財団	アメリカ・ヨーロッパ等諸外国の大学への環境関連のテーマを専攻する留学生の派遣等	3,900,000
4	特定非営利活動法人フィールド'21	山梨県・四川省国際交流25周年「エコ国際友好交流事業」	1,600,000
5	第7回Bio-PIXE国際シンポジウム実行委員会	第7回Bio-PIXE国際シンポジウム	2,700,000
6	第8回プラズマ応用科学国際シンポジウム組織委員会	第8回プラズマ応用科学国際シンポジウム	1,500,000
7	エコデザイン学会連合	第7回環境調和型設計とインバースマニュファクチャリングに関する国際シンポジウム	3,100,000
8	リトル東京デザインウィーク実行委員会(アメリカ合衆国)	リトル東京デザインウィーク：フューチャー・シティ	5,500,000
9	第7回理論化学物理国際会議組織委員会	第7回理論化学物理国際会議	2,900,000
10	日本光生物学協会	第5回アジア・オセアニア光生物学会議開催準備事業	1,400,000
11	エコトピア科学に関する国際シンポジウム2011組織委員会	エコトピア科学に関する国際シンポジウム2011	2,000,000
12	海友会	日本オーストリア青年交流事業	600,000
13	びっくり！エコ実行委員会	「もったいない文化」学習・発信事業	1,000,000
14	松風館ファンデーション(オランダ)	オランダ王国・港湾都市ロッテルダム市における純日本式茶室建設事業	5,800,000
15	第8回国際比較生理生化学会議組織委員会	第8回国際比較生理生化学会議	4,000,000
16	The 5th International Conference on Metals and Genetics 組織委員会	第5回生体金属元素と遺伝学の国際会議	3,800,000
17	第24回アモルファスおよびナノ結晶半導体国際会議組織委員会	第24回アモルファスおよびナノ結晶半導体国際会議	3,400,000
18	耐火物技術協会	第12回耐火物統一国際会議	3,400,000
19	第11回酸素活性化と均一系酸化触媒に関する国際会議組織委員会	第11回酸素活性化と均一系酸化触媒に関する国際会議	2,600,000
20	IUPAC2011国際分析科学会議組織委員会	IUPAC2011国際分析科学会議	3,100,000

21	分子生物学と進化の国際学会 SMBE2011 年年次大会国内組織委員会	分子生物学と進化の国際学会 SMBE2011 年年次大会	2,400,000
22	ジョンソン・カウンティ・コミュニティ・カレッジ (アメリカ合衆国)	JCCC 大学の伝統的な日本庭園に茶室を増設	3,800,000
23	財団法人石川県芸術文化協会	芸文協いしかわ 「芸術の森プロジェクト」	1,000,000
24	第19回非線形音響国際シンポジウム組織委員会	第19回非線形音響国際シンポジウム	700,000
25	半導体のプロセス・デバイスのシミュレーションに関する国際会議運営委員会	半導体のプロセス・デバイスのシミュレーションに関する国際会議	1,500,000
26	社団法人粉体粉末冶金協会	第11回国際フェライト会議	2,700,000
27	社団法人日本ガスタービン学会	第10回国際ガスタービン会議	1,800,000
28	第12回紫外線・電子線硬化技術国際会議組織委員会	第12回紫外線・電子線硬化技術国際会議	2,500,000
29	大阪ヨーロッパ映像文化振興会	第18回大阪ヨーロッパ映画祭	2,500,000
	合 計		29件 74,400,000

【国際相互理解・文化的活動に関する事業】

NO	事業者名	事業名	交付決定額(円)
1	カナダ文明博物館コーポレーション (カナダ)	革新的な日本特別展 (仮名)	6,800,000
2	大阪大学大学院文学研究科演劇学研究室	国際演劇学会大阪大会「伝統、革新、コミュニティ」	1,700,000
3	プロジェクト・ハポンーきおくのなかのくにー実行委員会 (メキシコ)	プロジェクト・ハポンーきおくのなかのくにー 映像 DVD 附属写真集刊行事業	4,200,000
4	IUTAM Symposium on 50 Years of Chaos: Applied and Theoretical 実行委員会	国際理論応用力学連合による理論および 応用に関わるカオス発見 50 周年記念集会の開催	2,600,000
5	公益財団法人江戸糸あやつり人形結城座	～日本とイタリアにおける無形文化財の 展望 その1～ 結城座&プーピ・シチリアーニ 伝統の糸あやつり人形による古典公演の競演	5,800,000
6	第9回国際AAAタンパク質カンファレンス組織委員会	第9回国際AAAタンパク質カンファレンス	800,000
7	日本家族看護学会	第10回国際家族看護学会	3,300,000
8	国際ケアリング学会組織委員会	国際ケアリング学会	3,300,000
9	財団法人現代人形劇センター	アジアの人形劇4カ国交流ワークショップ と一般公開プログラム	2,000,000
10	在亜沖縄県人連合会 (アルゼンチン共和国)	亜日社会福祉センターのエレベーター設置	4,700,000

11	Galeria VI (スロバキア)	rese-arch 2011 -国際会議/建築論と研究のイベント	400,000
12	翰林大学校 日本学研究所 (大韓民国)	日本学関連学術図書の翻訳出版	3,000,000
13	特定非営利活動法人ミュージック・シェアリング	交流プログラム 訪問コンサート 2011	1,500,000
14	NPO 法人京都乳癌コンセンサス会議	京都乳癌コンセンサス会議 2011 国際大会	2,300,000
15	日蘭学生会議	第2回日蘭学生会議	1,100,000
16	日本・イスラエル・パレスチナ学生会議 (JIPSC)	第9回日本・イスラエル・パレスチナ合同学生会議	300,000
17	ICOMAT-2011 実行委員会	マルテンサイト変態に関する国際会議 (ICOMAT-2011) の開催	1,400,000
18	第25回国際比較白血病学会・国際シンポジウム実行委員会	第25回国際比較白血病学会・国際シンポジウム	2,900,000
19	大阪新能委員会	第55回大阪新能	1,000,000
20	特定非営利活動法人ビデオアートセンター東京	日本のビデオアートの開拓者たち: 国内のメディア芸術とよばれるアート表現の黎明期のドキュメンタリー映像制作とその上映公開とリーフレット・記録メディアによる頒布	600,000
合 計			20 件 49,700,000

【万博公園賑わい創出支援事業】

NO	事業者名	事業名	交付決定額(円)
1	大阪ジュニアバンド	大阪ジュニアバンド 日豪交歓演奏会 2011 “大地の鼓動” in 大阪 -「アボリジナル・ミュージック」とバンド、バトンの共演-	3,600,000
2	科学の祭典実行委員会野外実験班	理科実験野外教室	1,400,000
3	関西吹奏楽連盟	プラス エキスポ' 11	4,600,000
4	慶應義塾大学アート・センター	幻の万博映画「誕生」の調査と公開上映	1,100,000
5	財団法人千里文化財団	陽気なラテンアメリカ音楽の魅力にせまる 先住民、ヨーロッパ、アジアの融合の歴史 (仮)	3,000,000
6	世界の民族音楽&スポーツフェスタ実行委員会	環境 EXP02011 親子で地球にいいこと体験&キッズフリマ	2,600,000
7	特定非営利活動法人大阪府民循環型社会推進機構	万博エコアップラリー	1,300,000
8	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立民族学博物館	「第20回国際歴史言語学会」および「アジアの言語の系統と日本語の起源に関する国際シンポジウム」の開催	4,400,000
9	特定非営利活動法人インクルージョンプログラムラボラトリ	新体力テスト in 万博公園	1,700,000
10	財団法人大阪日本民芸館	大阪日本民芸館春季特別展記念講演会及び大阪日本民芸館秋季特別展記念講演会	800,000

11	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立民族学博物館	企画展「インド ポップ・アートの世界」(仮称)の実施	4,400,000
12	社団法人関西環境開発センター	講演会「大阪万博を語ろう」(仮称)企画展「甦る大阪万博ユニフォーム」(仮称)	3,500,000
13	NPO 法人狂言小劇団・なごみ狂言会 チェコ	万博「日本庭園」における2ヵ国語狂言公演	1,500,000
14	北欧の音楽ピクニック実行委員会	北欧の音楽ピクニック	4,400,000
15	第11回日本蛋白質科学会年会組織委員会	第11回日本蛋白質科学会年会	4,100,000
16	社団法人国際音楽交流協会	日露交歓コンサート2011(万博会場)	3,500,000
17	一般社団法人あだーじょ	チャレンジ25/大阪カーボンオフセット万博公園!大阪の森づくり	1,200,000
18	財団法人千里文化財団	万博&民博がやってきた!ー見て、触れて、わかる“世界”(仮)	2,900,000
	合 計		18件 50,000,000

予算、収支計画及び資金計画の計画に対する実績

(1) 予算の状況

第1号勘定（公園事業）

（単位：百万円）

	中期計画	年度計画A	4月～3月までの実績	
	5カ年	22年度	実績額	対A
収入				
業務収入	11,825	2,393	2,358	99%
その他の収入	5,703	1,476	1,525	103%
計	17,528	3,868	3,882	100%
支出				
管理運営費	11,889	2,397	2,319	97%
人件費	2,715	553	519	94%
管理諸費	9,175	1,844	1,800	98%
公園整備費	4,999	1,355	920	68%
その他の支出	—	—	—	—
計	16,888	3,752	3,238	86%

第2号勘定（基金事業）

（単位：百万円）

	中期計画	年度計画A	4月～3月までの実績	
	5カ年	22年度	実績額	対A
収入				
業務収入	1,539	314	314	100%
その他の収入	1	0	0	52%
計	1,541	314	314	100%
支出				
管理運営費	285	49	41	83%
人件費	240	41	35	87%
管理諸費	45	8	5	64%
基金事業費	927	192	184	96%
その他の支出	328	73	78	107%
計	1,541	314	303	97%

第1号勘定と第2号勘定の合計

（単位：百万円）

	中期計画	年度計画A	4月～3月までの実績	
	5カ年	22年度	実績額	対A
収入				
業務収入	13,364	2,707	2,672	99%
その他の収入	5,704	1,476	1,525	103%
計	19,068	4,182	4,197	100%
支出				
管理運営費	12,174	2,445	2,359	96%
人件費	2,955	594	554	93%
管理諸費	9,220	1,852	1,805	97%
公園整備費	4,999	1,355	920	68%
基金事業費	927	192	184	96%
その他の支出	328	73	78	107%
計	18,429	4,066	3,542	87%

（注）各欄積算と合計欄の数字及び対比率については、四捨五入の関係で一致しないことがある。

(2) 収支の状況

第1号勘定

(単位：百万円)

	中期計画	年度計画A	4月～3月までの実績	
	5カ年	22年度	実績額	対A
収益の部				
経常収益	15,202	3,059	3,112	102%
公園事業収入等	12,901	2,583	2,616	101%
財務収益	1,734	356	372	105%
その他の収入	567	120	124	104%
臨時収益	—	190	360	189%
計	15,202	3,249	3,472	107%
費用の部				
経常費用	14,801	3,171	2,980	94%
公園事業費等	14,784	3,167	2,977	94%
その他の費用	17	3	3	107%
臨時損失	—	—	370	皆増
計	14,801	3,171	3,350	106%
純利益	402	79	122	155%
目的積立金取崩額	—	—	—	—
総利益	402	79	122	155%

第2号勘定

(単位：百万円)

	中期計画	年度計画A	4月～3月までの実績	
	5カ年	22年度	実績額	対A
収益の部				
経常収益	1,539	314	314	100%
基金運用収入	1,539	314	314	100%
臨時収益	—	—	—	—
計	1,539	314	314	100%
費用の部				
経常費用	1,539	314	295	94%
基金事業費等	1,324	264	245	93%
その他の費用	215	50	50	100%
臨時損失	—	—	—	—
計	1,539	314	295	94%
純利益	—	—	19	皆増
目的積立金取崩額	—	—	—	—
総利益	—	—	19	皆増

第1号勘定と第2号勘定の合計

(単位：百万円)

	中期計画	年度計画A	4月～3月までの実績	
	5カ年	22年度	実績額	対A
収益の部				
経常収益	16,742	3,373	3,426	102%
公園事業収入等	12,901	2,583	2,616	101%
基金運用収入	1,539	314	314	100%
財務収益	1,734	356	372	105%
その他の収入	567	120	124	104%
臨時収益	—	190	360	189%
計	16,742	3,563	3,786	106%
費用の部				
経常費用	16,340	3,484	3,275	94%
公園事業費等	14,784	3,167	2,977	94%
基金事業費等	1,324	264	245	93%
その他の費用	232	53	53	100%
臨時損失	—	—	370	皆増
計	16,340	3,484	3,645	105%
純利益	402	79	142	180%
目的積立金取崩額	—	—	—	—
総利益	402	79	142	180%

(注) 各欄積算と合計欄の数字及び対比率については、四捨五入の関係で一致しないことがある。

(3) 資金の状況

第1号勘定

(単位：百万円)

	中期計画	年度計画A	4月～3月までの実績	
	5ヵ年	22年度	実績額	対A
資金収入	29,344	7,550	7,740	103%
業務活動による収入	14,794	3,239	3,450	106%
業務収入	14,579	3,189	3,304	104%
その他の収入	215	50	146	291%
投資活動による収入	13,550	3,900	3,900	100%
財務活動による収入	—	—	—	—
前期よりの繰越金	1,000	410	390	95%
資金支出	29,344	7,550	7,740	103%
業務活動による支出	12,742	2,740	2,560	93%
人件費支出	2,936	541	568	105%
国庫等納付金の支払額	351	—	—	—
その他の業務支出	9,755	2,199	1,992	91%
投資活動による支出	15,983	4,391	4,115	94%
財務活動による支出	20	4	4	100%
次期への繰越金	600	414	1,060	256%

第2号勘定

(単位：百万円)

	中期計画	年度計画A	4月～3月までの実績	
	5ヵ年	22年度	実績額	対A
資金収入	11,222	2,734	2,752	101%
業務活動による収入	1,541	314	329	105%
業務収入	1,541	314	316	101%
その他の収入	—	—	13	皆増
投資活動による収入	9,603	2,400	2,400	100%
財務活動による収入	—	—	—	—
前期よりの繰越金	78	20	23	112%
資金支出	11,222	2,734	2,752	101%
業務活動による支出	1,564	312	316	101%
人件費支出	360	58	87	151%
その他の業務支出	1,203	254	229	90%
投資活動による支出	9,603	2,400	2,382	99%
財務活動による支出	—	—	—	—
次期への繰越金	55	22	54	243%

第1号勘定と第2号勘定の合計

(単位：百万円)

	中期計画	年度計画A	4月～3月までの実績	
	5ヵ年	22年度	実績額	対A
資金収入	40,566	10,284	10,491	102%
業務活動による収入	16,335	3,553	3,779	106%
業務収入	16,120	3,503	3,620	103%
その他の収入	215	50	159	317%
投資活動による収入	23,153	6,300	6,300	100%
財務活動による収入	—	—	—	—
前期よりの繰越金	1,078	430	412	96%
資金支出	40,566	10,284	10,491	102%
業務活動による支出	14,306	3,052	2,876	94%
人件費支出	2,996	598	655	110%
国庫等納付金の支払額	351	—	—	—
その他の業務支出	10,958	2,454	2,221	91%
投資活動による支出	25,586	6,791	6,497	96%
財務活動による支出	20	4	4	100%
次期への繰越金	655	436	1,114	256%

(注) 各欄積算と合計欄の数字及び対比率については、四捨五入の関係で一致しないことがある。

予算、収支計画及び資金計画に関する実績（決算額）の経年比較表

(1) 予算

第1号勘定と第2号勘定の合計

(単位：百万円)

区 分		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	区 分		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
収入	業務収入	2,832	2,812	2,649	2,801	2,672	支出	管理運営費	2,550	2,566	2,454	2,411	2,359
	その他の収入	1,534	894	905	1,192	1,525		人件費	578	599	582	568	554
								管理諸費	1,973	1,967	1,872	1,842	1,805
								公園整備費	1,229	529	684	947	920
								基金事業費	210	205	219	161	184
								その他の支出	31	31	30	78	78
	計	4,366	3,706	3,554	3,993	4,197		計	4,020	3,331	3,388	3,597	3,541

(2) 収支計画

第1号勘定と第2号勘定の合計

(単位：百万円)

区 分		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	区 分		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
収益の部	経常収益	3,588	3,552	3,297	3,602	3,426	費用の部	経常費用	3,335	3,401	3,164	3,355	3,275
	公園事業収入等	2,695	2,674	2,490	2,740	2,616		公園事業費等	3,050	3,091	2,878	3,079	2,977
	基金運用収入	331	329	331	325	314		基金事業費等	267	273	269	224	245
	財務収益	436	432	390	376	372		その他の費用	19	37	18	53	53
	その他の収入	126	118	86	161	124							
	臨時収益	-	-	-	8	360		臨時損失	-	0	36	10	370
	計	3,588	3,552	3,297	3,610	3,786		計	3,335	3,401	3,201	3,365	3,645
						純利益	252	150	96	245	142		
						目的積立金取崩額	55	-	-	-	-		
						総利益	307	150	96	245	142		

(3) 資金計画

第1号勘定と第2号勘定の合計

(単位：百万円)

区 分		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	区 分		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
資金収入	業務活動による収入	3,657	3,837	3,324	3,440	3,779	資金支出	業務活動による支出	3,042	3,075	3,344	2,836	2,876
	業務収入	3,533	3,680	3,198	3,350	3,620		人件費支出	672	664	663	654	655
	その他の収入	124	157	126	90	159		その他の業務支出	2,370	2,410	2,275	2,181	2,221
	投資活動による収入	3,046	3,782	3,053	4,000	6,300		国庫等納付金の支払額	-	-	406	-	-
	財務活動による収入	-	-	-	-	-		投資活動による支出	4,525	3,851	3,714	4,924	6,497
								財務活動による支出	-	-	7	4	4
	前期からの繰越金	1,595	731	1,425	736	412		次期への繰越金	731	1,425	736	412	1,114
	計	8,298	8,350	7,802	8,176	10,491		計	8,298	8,350	7,802	8,176	10,491

(注) 各欄積算と合計欄の数字については、四捨五入の関係で一致しないことがある。

貸借対照表及び利益の処分に関する書類の経年比較表

(1) 貸借対照表

(法人単位)

(単位：百万円)

区 分	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	区 分	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
資 産 の 部	流動資産	4,684	4,718	5,085	6,995	4,681	流動負債	901	774	589	785	1,074
	固定資産	144,386	144,094	142,992	142,113	144,883	固定負債	6,719	6,437	6,197	6,787	6,811
							負債合計	7,620	7,211	6,786	7,571	7,885
							資本金	121,978	121,978	121,978	121,978	121,978
							基金	18,586	18,586	18,812	18,812	18,812
							利益剰余金	887	1,038	502	747	889
							公園整備積立金	-	-	-	-	-
							助成事業積立金	-	-	-	-	-
							積立金	580	887	406	502	747
							当期末処分利益	307	150	96	245	142
	資産計	149,071	148,812	148,078	149,108	149,563	資本合計	141,451	141,602	141,291	141,537	141,679
						負債・資本合計	149,071	148,812	148,078	149,108	149,563	

(2) 利益の処分に関する書類

(法人単位)

(単位：百万円)

区 分	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
当期末処分利益	307	150	96	245	142
当期総利益	307	150	96	245	142
利益処分額	307	150	96	245	142
積立金	307	150	96	245	142
独立行政法人通則法第44条第3項に より主務大臣の承認を受けた額					
公園整備積立金	-	-	-	-	-
助成事業積立金	-	-	-	-	-

22年度は、未承認

(注) 各欄積算と合計欄の数字については、四捨五入の関係で一致しないことがある。

公園整備等に関する計画の執行実績

(単位:百万円)

区 域	中期計画	年度計画	実績額	年度計画	中期計画
	平成 20～24 年度 (a)	平成 22 年度 (b)	平成 22 年度 (c)	達成率 (c) / (b)	達成率 (c) / (a)
日本庭園	331	95	80	83.9%	24.1%
自然文化園	3,709	825	663	80.4%	17.9%
スポーツ施設地区	864	227	128	56.4%	14.8%
旧エキスポランド地区	-	70	6	8.7%	皆増
管理サービス地区	94	138	42	30.8%	45.2%
合 計	4,999	1,355	920	67.8%	18.4%

(注)各欄積算と合計欄の数字及び対比率については、四捨五入の関係で一致しないことがある。

平成 22 年度主要工事一覧(区域別 1 千万円以上 単位:百万円)

区 域	工 事 名	金 額
日本庭園	日本庭園汎庵屋根葺替改修工事	51
	日本庭園井戸整備工事	12
	その他(小規模工事、設計・監理委託費等)	17
	小 計	80
自然文化園	夢の池防水層改修工事	214
	万国橋耐震補強工事	110
	お祭り広場舗装改修工事	77
	自然文化園 2、3 工区受変電設備改修工事	53
	夢の池曝気設備改修工事	51
	万博公園ライトアップ整備工事	24
	自然文化園園路舗装工事	22
	「ガラスの河」等修復展示工事	11
	4 工区井戸整備工事	10
その他(小規模工事、設計・監理委託費等)	91	
小 計	663	
スポーツ施設地区	万博記念競技場メインスタンド便所他改修工事	33
	万博記念競技場照明設備 LED 化工事	21
	テニスコート(アンツーカ)改修工事	13
	スポーツ広場防球ネット改修工事	13
	西第 1 駐車場自動料金清算システム改修工事	12
	その他(小規模工事、設計・監理委託費等)	36
小 計	128	
旧エキスポランド地区	その他(小規模工事、設計・監理委託費等)	6
	小 計	6
管理地区	万博記念ビル 4 階防水改修工事	14
	万博記念ビル耐震補強工事	13
	その他(小規模工事、設計・監理委託費等)	16
小 計	42	
合 計	920	

※区域区分の関係で、主要工事一覧の金額は契約金額と一致しない場合がある。

財源別執行金額は、次のとおりである。

第二勘定からの繰り入れ	50 百万円	お祭り広場舗装改修工事
長期預り金資産整備事業費	474 百万円	夢の池防水層改修工事他